



Adobe Acrobat用RICOH ProcessDirectorプラグイン を使用する

Version 3.13.3

概要

1

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe
Acrobatを使用する

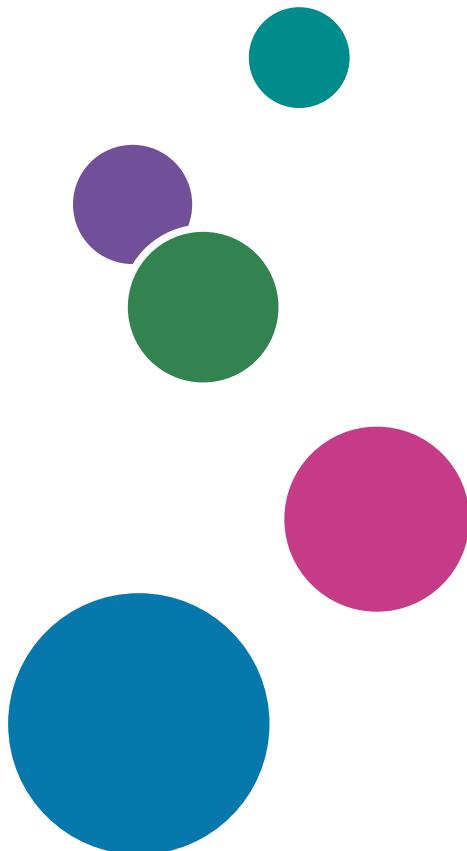
2

トラブルシューティング

3

アクセシビリティー

本書に記載されていない情報については、製品のヘルプ・システムを参照してください。



目次

はじめに

おことわり	3
本書についてのご注意	3
使用説明書とヘルプの紹介	3
使用説明書とヘルプの読み方	5
RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する前に	5
使用説明書とヘルプの利用方法	5
関連製品情報	5
マークについて	6
省略語	6
商標	6

1 概要

ページグループ	9
文書プロパティー	10
条件付き処理	11
マークアップ	11
制御ファイル	11
サンプル PDF ファイル	12

2 RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する

Acrobat のクイック起動バーにプラグインアイコンを追加する	15
設定	15
測定単位	18
ユーザーインターフェース	18
制御ファイルを操作する	21
マークアップをプレビューする	22
マークアップ定義を変更する	25
ページグループを定義する	27
文書プロパティーを操作する	30
文書プロパティーを定義する	32
複数の文書プロパティーを定義する	36
アドレスブロックを定義する	41
文書プロパティー値を表示する	43
文書プロパティー値を保存する	44
規則を操作する	44
定義済みの規則	45

条件付きトリガー.....	46
規則でジョブプロパティーまたは文書プロパティーを使用する.....	47
規則で統計を使用する.....	47
規則を定義する.....	48
条件付きトリガーを定義する.....	51
規則を管理する.....	52
PDF ファイルにマークアップを追加する	52
PDF ファイルにバーコードを追加する	53
PDF ファイルに OMR マークを追加する	60
PDF ファイルにイメージを追加する	63
PDF ファイルで領域を非表示にする	64
PDF ファイルにテキストを追加する	66
ページ挿入を操作する	71
他の PDF ファイルからページを挿入する	71
メディアと仕上げ	75
メディアと仕上げのオプションを管理する.....	76
メディアと仕上げのオプションを選択する.....	76
3 ラブルシューティング	
プラグインのバージョンを確認する.....	79
ページグループが正しく表示されない	79
プレビューでマークアップが正しいページに表示されない	79
テキストを選択するとテキストではなく小さいボックスが表示される	80
フォント、イメージ、またはその他のリソースが表示されない	80
RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatカットオフ値のフィールド	80
文書プロパティーが表示されない	81
メディアオプションが表示されない	81
PDFファイルにテキストを追加したときに、リストにフォントが表示されない	81
代替字形のフォントが正しく表示されない	82
QR バーコードに日本語データが印刷されない	82
メモリー設定の確認を求めるエラーメッセージが表示される	82
4 アクセシビリティ	

はじめに

おことわり

適用される法律で許容される最大限の範囲内で、いかなる場合でも、本製品の故障、書類またはデータの紛失、本製品およびそれに付属の取扱説明書の使用または使用不能から生じるいかなる損害についても、製造者は責任を負いません。

重要な文書やデータのコピーやバックアップを常に取っておいてください。操作上の誤りやソフトウェアの誤動作により、文書やデータが消去されることがあります。また、コンピューターウィルス、ワーム、およびその他の有害なソフトウェアに対する保護対策を講ずる責任があります。

いかなる場合でも、製造者は、本製品を使用してお客様が作成した文書またはお客様が実行したデータの結果について責任を負いません。

本書についてのご注意

- このガイドの指示または説明には、製品が改良または変更されたためにお持ちの製品に対するものとは異なる説明が含まれている可能性があります。
- この文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- この文書のいかなる部分も、提供者の事前の許可なく重複、複製、あらゆる形のコピー、変更、または引用することを禁じます。
- 本書では、ディレクトリパスの参照は、デフォルトパスのみを示しています。異なるドライブも含め、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を別の場所にインストールする場合は、パスを適宜調整する必要があります。
たとえば、Windowsオペレーティングシステムを実行しているコンピューターのD: ドライブにRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatをインストールした場合、ディレクトリパスのC:をD:に置き換えます。

使用説明書とヘルプの紹介

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat には、以下の使用説明書とヘルプが用意されています。

使用説明書

ご利用いただける使用説明書は次のとおりです。

- 「RICOH ProcessDirector: 他のアプリケーションと統合する」
この使用説明書には、他のアプリケーションとデータを交換するようにRICOH ProcessDirectorを構成する方法に関する技術的な情報が記載されています。
- 「Linux、Windows用RICOH ProcessDirector：プランニング/インストールする」

この使用説明書では、使用しているオペレーティングシステムでのRICOH ProcessDirectorについての計画とインストール手順について説明します。パブリケーションCDには、使用しているオペレーティングシステム（Linux、Windows）用の本取扱説明書が収録されています。

- ・ 「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能のインストール」
この使用説明書は、ジョブとジョブ内の個々の文書の両方を制御および追跡するRICOH ProcessDirector機能のインストール方法について説明しています。
- ・ 「RICOH ProcessDirector : RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する」（本資料）
この使用説明書は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatの使用方法について説明しています。Adobe Acrobat プラグインを使用して、PDF ファイルでテキスト、バーコード、イメージ、およびその他の拡張を定義できます。拡張機能を制御ファイルに保存すると、RICOH ProcessDirectorワークフローでは、制御ファイルを使用してPDFファイルを同様に拡張できます。
- ・ 「Font Summary」
この使用説明書は、InfoPrint Font Collectionのフォントの概念とさまざまな種類のフォントについて説明します。「Font Summary」は英語版のみです。
- ・ 「ホワイトペーパー - 拡張 AFP 機能を使用する」
この使用説明書は、拡張 AFP 制御ファイルを設定および使用する方法について説明します。この使用説明書は英語版のみです。
- ・ RICOH ProcessDirectorのreadmeファイル(readme.html)
このファイルには、他の使用説明書へのアクセス方法が示されています。README ファイルは英語版のみです。
- ・ RICOH ProcessDirectorリリースノート
このリリースノートには、新しい機能やアップデート、既知の制限事項、問題、回避策、コード変更要求を含むRICOH ProcessDirectorのリリースに関する情報が記載されています。リリースノートは英語版のみです。

RICOHソフトウェアインフォメーションセンター（<https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/>）からPDF形式の英語版の説明書をダウンロードできます。

RICOH ProcessDirector インフォメーションセンター

RICOH ProcessDirector インフォメーションセンターには、管理者、スーパーバイザー、オペレーターがRICOH ProcessDirector文書機能について学び、使用する際に役立つトピックがあります。インフォメーションセンターは、RICOH ProcessDirector ユーザーインターフェースから使用でき、クリックナビゲーションと検索機能を提供します。

RICOH ProcessDirectorヘルプ

フィールドヘルプは、特定のタスクおよび設定に関する情報を提供するRICOH ProcessDirector文書処理機能の多くの画面で使用できます。

使用説明書とヘルプの読み方

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する前に

このマニュアルでは、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを正しく使用するための手順と注意事項を説明します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する前に、全体をよくお読みください。このマニュアルはいつでも参照できるようお手元に置いておいてください。

使用説明書とヘルプの利用方法

取扱説明書は、ニーズに合わせて使用してください。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのインストール方法は、以下のとおりです。

「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能をインストールする」を参照してください。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat の機能と操作の使用方法:

「RICOH ProcessDirector: RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用する」を参照してください。この情報は、プラグインヘルプシステムおよびRICOH ProcessDirector インフォメーションセンターでも入手できます。

資料を表示する

「RICOH ProcessDirector文書処理機能をインストールする」は、インストールプログラムの実行時、つまりアプリケーションのインストール時にアクセスできます。

「RICOH ProcessDirector：文書処理機能をインストールする」、および「RICOH ProcessDirector : RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する」は、RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースからもアクセスできます。

RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースのトップメニューにある  ボタンをクリックして、ダウンロードする資料を選択してください。

補足

- 資料を表示するには、Adobe Acrobat ReaderなどのPDFビューアーが必要です。
- 資料を閲覧するには、RICOH ProcessDirectorのユーザーインターフェースにログインする必要があります。

ヘルプシステムを表示する

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのヘルプシステムはアプリからアクセスできます。ダイアログの [ヘルプ] をクリックします。

関連製品情報

当社製品の詳細:

-
- リコーソフトウェアインフォメーションセンター(<https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/>)
-

マークについて

このマニュアルでは、内容を迅速に識別するために、次のシンボルが使用されています。



- 製品を使用する際に注意する点を示しています。次の説明を必ずお読みください。



- タスクを完了するために直接関係のない有益な補足情報を示します。

太字

[太字] は、ダイアログ、メニュー、メニュー項目、設定、フィールドラベル、ボタンキーの名前を示します。

イタリック

イタリック体は、独自の情報で置き換える必要があるマニュアルと変数のタイトルを示します。

モノスペース

モノスペース体は、コンピューターの入出力を示します。

省略語

このマニュアルで使用されている略語。

HTTP

Hyper Text Transfer Protocol

IP

Internet Protocol

OMR

Optical Mark Recognition (光学式マーク認識)

PDF

Portable Document Format

商標

RICOH ProcessDirector™は、株式会社リコーの米国およびその他の国における商標です。

Adobe、Reader、およびPostScriptは、Adobe Systems Inc の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、およびInternet Explorerは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Oracle およびJavaは、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

UNIXは、The Open Group の登録商標です。

Sentinel®は、Thales DIS CPL USA, Inc.の登録商標です。

Windows オペレーティングシステムの正式名称は次のとおりです。

- Windows 7 の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows 7 Professional
 - Microsoft Windows 7 Ultimate
 - Microsoft Windows 7 Enterprise
- Windows 10 の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows 10 Pro
 - Microsoft Windows 10 Enterprise
- Windows 11の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows 11 Pro
- Windows Server 2016 の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows Server 2016 Standard
- Windows Server 2019の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows Server 2019 Standard
- Windows Server 2022の製品名は次のとおりです。
 - Microsoft Windows Server 2022 Standard

本書に記載されている他の製品名は、識別のためにのみ使用されており、各社の商標の可能性があります。当社では、このような商標に関する一切の権利を否認します。

1. 概要

- ページグループ
- 文書プロパティー
- 条件付き処理
- マークアップ
- 制御ファイル
- サンプル PDF ファイル

1

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、ワークフロー内のステップにより処理される PDF ファイルに対応して、PDF ファイル内で拡張を定義および表示するために使用する Adobe Acrobat Professional プラグインです。

この拡張には、バーコード、OMR マーク、イメージ、非表示領域、テキストなどが含まれます。PDF ファイルで定義した拡張機能は、PDF ファイルに保存されるのではなく、RICOH ProcessDirector が使用するサーバーで利用できる制御ファイルに保存されます。RICOH ProcessDirector は、制御ファイルを使用して、印刷処理する実動 PDF ファイルに同じ拡張機能を適用します。

マークアップ機能を拡張できるように、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、ページグループ、文書プロパティー、および条件付き処理も提供しています。

ページグループ

ページグループは、PDF ファイル内の 1 つの文書（郵便物、顧客取引明細書など）を構成する一連のページです。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat では、1 つの文書は 1 つのページグループです。1 つの PDF ファイルに複数の文書を含めることができます。1 つの PDF ファイル全体が单一のページグループとして扱われる場合は、PDF ファイルは 1 つの文書を表します。

ページグループは、マークアップを追加する前に定義する必要があります。ページグループの定義後、各文書内の特定のページにマークアップを適用できます。例えば、各文書の最初のページにバーコードを追加したり、表面のすべてのページにイメージを追加したり、裏面の最初のページにテキストを追加できます。

次の方法でページグループを定義できます。

- PDF ファイル全体として。
- 固定のページ数として。
- 各ページグループの最初のページと同じ場所にある、選択されたテキストに基づきます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、各ページグループの最初のページを判断するのに繰り返しテキストを使用します。例えば、1 つの PDF ファイルに 100,000 通の顧客取引明細書が含まれていて、各取引明細書が 3 ページ以上あるとします。ページグループを定義するには、各取引明細書の最初のページ上の同じ位置にある [1 /] を選択します。

補足

サンプル PDF ファイルを使用してページグループを定義する場合は、選択するテキストの内容と位置が、実動 PDF ファイル間で一致していることを確認してください。

- テキストの特定の領域内にある文書の最初のページに表示される特定のキーワードまたは語句に基づきます。周囲のテキストは変わる場合がありますが、キーワードおよび語句は変わりません。

- 各ページグループの最初のページにある指定されたテキストに基づきます。テキストを入力する際に、ワイルドカード文字を使用できます。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、ワイルドカード文字を任意の文字として解釈します。
- 各ページグループの最初のページでテキストを指定するために定義するJavaの正規表現に基づきます。
例えば、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatが英語のテキスト **Page 1 of** またはスペイン語のテキスト **Página 1 de** を検出するたびに、新しいページグループが開始されるように、Javaの正規表現を定義します。
- 選択された領域内のテキストが変更された場合。
例えば、PDFファイル内のステートメント上でアカウント名の周りにボックスを描画します。ボックス内のテキストが変更されるたびに、そのページは新しいページグループの最初のページになります。各ページのボックスの場所は、評価するテキストまたは空白領域(テキストを含まない)のみを含む必要があります。

各ページグループのページのリストを表示するには、ページグループナビゲーターを使用します。ページグループが正しいことを確認したら、新しいページグループ定義を含む制御ファイルを保存します。定義した文書プロパティーは、同じ制御ファイルに保存します。次に、制御ファイルの名前と場所を、IdentifyPDFDocumentsステップテンプレートを基にしたRICOH ProcessDirectorステップに追加します。

文書プロパティー

文書プロパティーは、文書のページ上の特定の位置から抽出したカスタマーナー名または郵便番号などのデータです。文書プロパティーを使用して、さまざまな情報に基づいてマークアップを追加できます。例えば、異なる地域に送信する文書にそれぞれ異なるイメージを追加できます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatには、高度なアドレスブロック構文解析ツールがあり、これを使用して一定ではない複雑な行の住所から、市区町村、都道府県、郵便番号、およびその他の文書プロパティーを抽出できます。ジョブ内の文書の再印刷が必要な場合は、RICOH ProcessDirectorを使用して文書プロパティー値を検索すれば、再印刷が必要な特定の文書を見つけることができます。

独自の文書プロパティーを定義するか、ドロップダウンリストからRICOH ProcessDirector文書プロパティーを選択します。RICOH ProcessDirector文書プロパティーとともにRICOH ProcessDirector文書処理機能によって提供される機能を使用できます。

補足

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用して文書プロパティーを定義する場合、RICOH ProcessDirectorの文書プロパティーリストから選択します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatをインストールした後、またはRICOH ProcessDirector文書プロパティーを変更する際には、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatに文書プロパティーを読み込む必要があります。詳しくは、「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能をインストールする」を参照してください。

Ricoh → 文書プロパティー値の表示をクリックして、文書プロパティーの値が正しく抽出されたことを確認します。

外部プログラムを含む文書プロパティー値を使用したい場合には、値をタブ区切りテキストファイルに保存できます。

条件付き処理

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用して、PDFファイルにマークアップを追加する際には、条件付きの処理規則を作成して特定のページにマークアップを配置できます。また、条件付きの処理規則を使用して、メディアと仕上げオプションを適用したり、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatとRICOH ProcessDirectorが文書プロパティ一値を抽出するページを指定したりすることもできます。

規則は、[すべてのフロントページ]など、文書内のページに基づいて条件を指定できるとともに、ジョブプロパティー、文書プロパティー、統計、および条件付きトリガー(条件が満たされたかどうかを判断するテキスト)に基づいて条件を指定できます。

例えば、取引明細書の最初のページの上部にある請求書という語句で、バーコード配置がトリガーされるようにする場合は、次の手順に従います。まず、請求書という語句を選択して、条件付きトリガーとして定義します。次に、条件付きトリガーを指定する規則を定義します。バーコードをPDFファイルに追加する場合、この規則を指定してバーコードの配置を制御します。バーコードは、条件付きトリガーによって指定された位置に請求書という語句が表示されるページにのみ印刷されます。

RICOH ProcessDirector ワークフローには、RICOH ProcessDirector 処理の実行中にジョブプロパティ一値を設定するステップを含めることができます。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用してジョブプロパティーで規則を定義する場合、RICOH ProcessDirector でジョブプロパティ一値を設定することで、規則の適用方法を動的に作成したり、変更できます。たとえば、[Job.CustomerName] ジョブプロパティーの値が [BANK] である場合に限り、そのジョブプロパティーを使用して、バーコードを印刷できます。RICOH ProcessDirectorは、文書内の現在のページなどのジョブ処理統計も追跡します。PDF ジョブで各文書の 3 ページ目にバーコードを適用する場合は、[Stat.CurrentPageInDocument = 3] を規則の適用条件にします。

マークアップ

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、バーコード、OMR マーク、イメージ、テキスト、および非表示領域の 5 つのタイプのマークアップに対応しています。

マークアップの各タイプに、マークアップの内容を表す名前を割り当てます。そして、位置、配置、およびその他のプロパティーの値を割り当てます。PDFファイル内の文書ごとに異なるデータを使用して、マークアップの文書プロパティーと条件付き処理を定義できます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatがPDFファイルを表示すると、マークアップは名前のついたボックスの集合として表示されます。PDFファイルには手が加えられていません。[マークアップナビゲーター]を使用して、他のマークアップの下に隠れているマークアップを見つけて編集できます。

特定のページ上のマークアップの内容および配置を表示および確認するには、PDF ファイルをプレビューします。詳しくは、[P.22 「マークアップをプレビューする」](#)を参照してください。

制御ファイル

制御ファイルは、ページグループ定義、文書プロパティー、条件付きトリガー、およびマークアップを PDF ソースファイルとは独立して保存します。制御ファイルは、処理す

る PDF ファイルに同じ変更を適用するのに RICOH ProcessDirector が使用するテンプレートです。

補足

- ファイル → 保存またはファイル → 別名保存をクリックして PDF ソースファイルを保存しても、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat ページグループ、文書プロパティー、またはマークアップは保存されません。

RICOH ProcessDirector [IdentifyPDFDocuments] ステップを PDF ワークフローで使用するには、そのステップのページグループまたは文書プロパティーを定義する RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat 制御ファイルを追加する必要があります。すべてのマークアップ定義は、RICOH ProcessDirector [BuildPDFFromDocuments] ステップで使用する制御ファイルに保存する必要があります。

ページグループ、文書プロパティー、およびマークアップ定義に対して、個別に制御ファイルを作成する必要はありません。制御ファイルが [IdentifyPDFDocuments] と [BuildPDFFromDocuments] ステップの両方に追加される場合は、すべての定義を 1 つの制御ファイルに保存できます。ただし、1 つ以上の制御ファイルを異なる PDF ワークフローに適用できる場合、複数の制御ファイルの作成を選択できます。例えば、各ワークフローで独自の文書プロパティーが必要とされる一方で、一部のワークフローでは、同じ非表示領域で OMR マークに対応する必要がある場合などです。このような場合は、各ワークフローで文書プロパティーを定義した個別の制御ファイルを保存して、OMR マークを非表示にする制御ファイルは 1 つだけ保存します。各ワークフローでは、文書プロパティーを定義するワークフロー特有の制御ファイルを指定します。

[BuildPDFFromDocuments] ステップテンプレートに基づく各ワークフロー内のステップでは、非表示領域の定義を含む同じ制御ファイルを指定します。

補足

- [IdentifyPDFDocuments] ステップでは、1 つの制御ファイルを使用して、ページグループが作成され、文書プロパティーが抽出されます。[BuildPDFFromDocuments] ステップでは、オプションで制御ファイルを使用して、マークアップを適用し、PDF ファイルを再構築します。（[BuildPDFFromDocuments] では、制御ファイルは不要です。）マークアップをプレビューするには、ページグループ、およびマークアップコンテンツで使用する値を持つ文書プロパティ一定義を定義する必要があります。[BuildPDFFromDocuments] ステップに追加する制御ファイルにページグループまたはプロパティ一定義を保存する場合、RICOH ProcessDirector は、これらの定義を無視します。[BuildPDFFromDocuments] ステップは、[IdentifyPDFDocuments] ステップを含むワークフローから、ページグループと文書プロパティ一定義を受け取ります。

複数の制御ファイルの使い方と、マークアップを印刷する場所の確認方法については、P. 21 「制御ファイルを操作する」および P. 22 「マークアップをプレビューする」を参照してください。

サンプル PDF ファイル

実動 PDF ファイルが大きい場合（例えば、1000 ページを超える長さのものなど）、RICOH ProcessDirector で処理する PDF ファイルを表す小さいサンプル PDF ファイルをマークアップする必要があります。

1 つのサンプル PDF ファイルでマークアップを行い、すべての変更を制御ファイルに保存したら、RICOH ProcessDirector を使用して、サンプル PDF ファイルに一致するすべての

実動 PDF ファイルに、これらの変更を適用するだけです。RICOH ProcessDirector を使用して異なる形式または異なる文書プロパティの PDF ファイルを複数処理する場合、RICOH ProcessDirector を使用して印刷するファイルのタイプごとに、サンプル PDF ファイルをマークアップする必要があります。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を操作する場合、実動 PDF ファイルを表しているが、実動ファイルよりもサイズが小さい PDF ファイルにマークアップを行うことをお勧めします。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat で 1,000 ページ未満の PDF ファイルをマークアップすることで、マークアップの追加、プレビューの使用、抽出された文書プロパティの確認などを高速で実行できます。

サンプル PDF ファイルと RICOH ProcessDirector により処理される PDF ファイルの両方に、PDF ファイル自体に含まれているすべてのフォントとイメージが含まれている必要があります。ページサイズが異なる PDF ファイルがある場合、マークアップが予想どおり表示されないことがあります。すべてのマークアップ、文書プロパティ、およびページグループ定義の配置基準位置は、各ページの左上隅です。

2. RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用する

- Acrobat のクイック起動バーにプラグインアイコンを追加する
- 設定
- 測定単位
- ユーザーインターフェース
- 制御ファイルを操作する
- マークアップをプレビューする
- マークアップ定義を変更する
- ページグループを定義する
- 文書プロパティーを操作する
- 規則を操作する
- PDF ファイルにマークアップを追加する
- ページ挿入を操作する
- メディアと仕上げ

2

このソフトウェアは、バーコードなどのマークアップを追加したり、PDF ファイルのデータを使用して文書プロパティーを定義して PDF ファイルを拡張するのに使用します。

RICOH ProcessDirector IdentifyPDFDocuments ステップと BuildPDFFromDocuments ステップで、マークアップと文書プロパティ一定義が含まれる RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat 制御ファイルを指定すると、RICOH ProcessDirector で処理する PDF ファイルに同じ拡張を適用できます。

Acrobat のクイック起動バーにプラグインアイコンを追加する

PDF ファイルをマークアップするには、Adobe Acrobat プラグインをアクティブなツールにする必要があります。メニューバーで **Ricoh** → 選択をクリックする代わりに、プラグインアイコンのクリックすることもできます。Adobe Acrobat のクイック起動バーに RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat アイコンを固定できます。

次の手順に従います。

1. Adobe Acrobat Professional を開きます。
2. 右端にあるツールメニューをクリックします。
3. 高度な編集をクリックします。
4. RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat アイコン () を右クリックし、 クイックツールに追加を選択します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat アイコンは、Acrobat メインメニューの下にあるクイック起動バーに固定されます。

プラグインがアクティブなツールになると、アイコンが強調表示されます。

設定

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat の環境設定を、PDF ファイルを処理する方法に合わせてカスタマイズできます。

設定を変更するには、**Ricoh** → 設定をクリックします。

フォントタブ

[フォント] タブでは、フォントとサイズを選択します。このフォントは、PDF ファイルに描画するマークアップボックスの名前に適用されます。このオプションは、希望言語の文字のフォントを変更する場合に使用します。

補足

- 選択したスクリプトのスタイル、効果、色、タイプは、マークアップボックスの名前には適用されません。

2

プレビュータブ

[プレビュー] タブでは、次のプロパティーの値を設定します。

処理するページ数

この値によって、マークアップのプレビュー時、文書プロパティーのエクスポートと表示の時、およびページグループナビゲーターの使用時に処理するページの最大枚数が決定します。ページ数の値を大きくするほど、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat ではマークアップのプレビューおよび文書プロパティーの表示に時間がかかるようになります。

実動インテント

この値は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が PDF ファイルを解釈する方法を定義します。例えば、[実動インテント] が [片面] の場合、[2 番目のフロントページのみ] ページ配置により、各ページグループの 2 番目のページにマークアップが配置されます。[実動インテント] が [両面] の場合、[2 番目のフロントページのみ] ページ配置により、各ページグループの 3 番目のページにマークアップが配置されます。

Show electronic forms

この値によって、ファイルが使用するメディア用に定義された電子フォームとデータが組み合わせられたときのサンプルファイルの外観を、プレビューに表示するかどうかが決定します。

アドレスタブ

[アドレス] タブを使用して、[デフォルトのアドレスブロック形式] プロパティーの値を設定します。デフォルト値は、[アドレスブロックの定義] 機能を使用するときに表示されます。

ロギングタブ

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat にはテキスト形式のログファイルがあり、さまざまなレベルで履歴情報を提供するようにカスタマイズできます。[ログ] タブでは、次のプロパティーを定義します。

ロギングレベル

ログファイルに保存されるメッセージのタイプです。[トレース] では、6 種類のメッセージがすべて保存されます。[情報] では、情報、警告、エラー、および致命的メッセージの 4 種類のメッセージが保存されます。[致命的] では、致命的メッセージのみが保存されます。[オフ] では、ログがオフになります。

ログ出力フォルダー

作成されるプラグインログファイルと Java ログファイルのディレクトリパスです。最初のログファイルが作成されるときに、ディレクトリパスが存在している必要があります。ファイルが存在していない場合は、システムによってそれが作成されます。

プラグインログファイル

作成されるプラグインログファイルのファイル名です。

Java ログファイル

作成される Java ログファイルのファイル名です。

最大ファイルサイズ(MB)

ログの上限サイズです。ファイルの最小サイズは 1 MB で、最大サイズは 10 GB です。ファイルのサイズが上限に達すると、システムによってファイルが閉じられ、名前の最後に番号が付加されたファイル名に変更されます。その後、[保持するログファイル数] プロパティーの値に達するまでファイルは保持されます。例えば、ログファイル名が Log.txt の場合、ファイル名は Log.n.txt になります。ここで、n は 1 から [保持するログファイル数] プロパティーの値までの数字になります。最新のログは、Log.txt のままになります。

保持するログファイル数

現在のログファイルのほかに、保持されるログファイルの数です。この制限に達すると、システムはログファイルを作成した後に、最も古いログファイルを削除します。例えば、3 を選択した場合、現在のログファイルと、最近の 3 個のログファイルが保持されます。

[詳細] タブ

[詳細] タブでは、次のプロパティーの値を設定します。

ポート

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat とバックグラウンドの Java プロセス間の通信用の内部ポート番号です。この値を有効にするには、Adobe Acrobat を再起動します。デフォルトのポートを使用するソフトウェアがある場合は、このフィールドを編集します。

ヒープサイズ (MB)

Java 仮想マシンの割り当てプールでの希望する最小メモリー容量 (メガバイト単位) です。この値を有効にするには、Adobe Acrobat を再起動します。この値をテストして、マークアップする PDF ファイルのサイズと複雑さに合わせて微調整します。プレビュー、テキストの選択、ページグループナビゲーターの使用、文書プロパティーの抽出およびエクスポートで遅延が生じる場合は、メガバイト数を増やしてパフォーマンスを向上させることができます。ヒープサイズを、使用可能にしたメモリーより大きな値に設定した場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用できないことがあります。その場合は、ヒープサイズの値を小さくし、Adobe Acrobat を再起動してプラグインを再度アクティビ化してください。

その他の JVM オプション

最小ヒープサイズの設定に加えて、他の JVM メモリー設定を微調整できます。このフィールドは、サポート担当者のアドバイスがあった場合のみ編集してください。

測定単位

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、Adobe Acrobat の環境設定で設定した [ページとルーラーの単位] の測定単位を使用します。

この設定を参照または変更するには、編集 → 設定 → 単位とガイドをクリックします。

 **補足**

2

マークアップを定義するときは、OMR マークの測定単位など、特定の測定単位を定義します。

ユーザーインターフェース

プラグインユーザーインターフェースは、Adobe Acrobatに追加される [Ricoh] メニュー、マウスの右クリックポップアップメニュー、マウスの左クリックポップアップメニュー、およびRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat機能を実行するために使用するウィンドウで構成されます。

[Ricoh] メニューとマウスの右クリックポップアップメニュー

表P.18 「[Ricoh] と右クリックメニューオプション」に、Adobe Acrobat Proメニューバーに追加された [Ricoh] メニューから選択可能なオプションと、PDFファイルを右クリックしたときに選択可能なオプションを示します。

[Ricoh] と右クリックメニューオプション

メニュー オプション	説明
[選択]	RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatがアクティブなAdobe Acrobatツールになります。プラグインをアクティブにしたら、マウスの左クリックを使用して、特定のテキストを選択したり、マークアップを追加するPDFの領域にボックスを描画します。
[マークアップの追加]	オプションが左クリックメニューに表示されます。
[マークアップナビゲーターの表示]	アクティブなPDFファイルに追加したマークアップ、文書プロパティー、およびページグループ定義のリストが表示されます。このビューを使用して、マークアップを編集したり、他のマークアップの下に隠れているマークアップを見つけることができます。リスト内の名前の横にあるチェックボックスをオンにして、そのマークアップのボックスを表示します。マークアップボックスを非表示にするには、チェックマークを外します。マークアップタイプの前にあるチェックボックスをオフにした場合、そのタイプのすべてのマークアップのボックスが非表示になります。
[ページグループナビゲーターの表示]	各ページグループに属しているページが表示されます。ページグループを展開するには [+] 記号をクリックし、ページグループを折りたたむには [-] 記号をクリックします。このビューを使用すると、PDFファイル内の特定のページにナビゲートすることもできます。ページグループ内のいづれかのページをクリックし、Adobe Acrobat でアクティブなページにします。 ページグループ定義に基づいて予期したページグループが表示されない場合、定義を編集して正しいページグループを取得する必要があります。このビューで正しいページグループが表示されない場合、RICOH ProcessDirectorで正しい印刷結果を得ることができません。
[プレビュー]	ジョブにマークアップ、メディア、および仕上げが適用されたときに、ファイルが予期したとおりに印刷されるかどうかを確認できます。PDFファイルのプ

メニュー オプション	説明
	レビュー レンダリングをテストしたら、PDF ファイルの右上隅の [X] をクリックし、レンダリングされた PDF ファイルを閉じて元の PDF ファイルに戻ります。
[レビューの設定]	レビューのプリファレンスを設定または変更します。処理する最大ページ数、レンダリングインテント、およびその他の設定を定義できます。
[文書プロパティー値の表示]	読み込まれた制御ファイルに定義されている文書プロパティーの値を表示します。値は、タブ区切りテキストファイルに保存できます。
[規則の管理]	条件付き処理規則を表示します。新しい規則を定義したり、既存の規則を編集または削除できます。
[挿入データの管理]	別の PDF ファイルからのページを配置条件と一致する各文書の前、配置条件と一致する各文書の後、または両方の場所に挿入します。挿入されたページによって各文書のページ数が増加します。また、そこにもマークアップを適用できます。
[メディアと仕上げ]	PDF ファイル内の一連のページまたは文書に対して、メディアと仕上げのオプションを定義します。
[制御ファイルの読み込み]	既存の制御ファイルを読み込みます。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、すべてのページグループ、文書プロパティー、およびマークアップ定義を制御ファイルに保存します。制御ファイルを読み込んだ場合、その制御ファイル内のすべての定義が読み込まれます。一度に読み込むことができる制御ファイルは1つだけです。
[制御ファイルの保存]	マークアップ、文書プロパティー、ページグループの定義を制御ファイルに保存します。[制御ファイルの保存] ウィンドウには、保存する制御ファイルの名前と場所が表示されます。制御ファイルに新しい名前を入力するか、既存の名前を保持して、以前に読み込んだか保存した制御ファイルを上書きできます。RICOH ProcessDirector により使用される制御ファイルを保存するときは必ず、RICOH ProcessDirector の BuildPDFFromDocuments ステップまたは IdentifyPDFDocuments ステップの制御ファイルプロパティーで定義した場所に制御ファイルをコピーする必要があります。
[マークアップの削除]	アクティブな PDF ファイルから、すべてのマークアップ、文書プロパティー、およびページグループの定義を削除します。このオプションは、最初からやり直したり、以前の制御ファイルのマークアップが1つも含まれていない新しい制御ファイルを作成する場合に使用します。このオプションの使用後にマークアップや他の定義を PDF ファイルに追加した場合、[制御ファイルの保存] オプションを使用し、定義を新しい制御ファイル名で保存します。
[設定]	PDF ファイルに追加したマークアップのラベルに使用するデフォルトフォント、処理する最大ページ数、レンダリングインテント、ログオプション、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat用に予約するメモリーの最大量(ヒープスペース)などのプリファレンスを設定または変更します。
[ヘルプ]	資料「RICOH ProcessDirector : RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用する」を開きます。
[バージョン情報]	インストールされているRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのバージョン情報が表示されます。

左クリックメニュー

表P.20 「RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのマウスの左クリックメニュー」に、左クリックを使用してPDFファイル内にボックスを描画したときに表示されるRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatメニューから選択可能なオプションを示します。左クリックを使用するには、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatをAdobe Acrobatのアクティブなツールにする必要があります。そのためには、プラグイ

ンアイコンをクリックするか、Ricoh → 選択をクリックします。テキストを選択するか、マークアップを配置する領域を定義するときは、PDFでボックスを描画します。ボックスを描画するには、マウスで左クリックし、目的のテキストが選択されるか、目的のサイズのボックスが描画されるまで、マウスボタンを離さずにカーソルを下および右にドラッグします。マウスボタンを離すと、メニューがポップアップ表示されて次のオプションが表示されます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのマウスの左クリックメニュー

2

メニュー オプション	説明
[ページグループの定義]	PDFファイルを取引明細書や請求書などの郵便物に分割するページグループトリガーを定義します。マークアップを追加したり、文書プロパティーを定義する前に、ページグループを定義する必要があります。
[条件付きトリガーの定義]	PDF内のテキストから条件付きトリガーを定義します。マークアップが印刷または文書プロパティーが抽出されるページを定義する条件付き配置規則で、条件付きトリガーを使用します。例えば、取引明細書の1ページ目または2ページ目のどちらかの左上付近に請求書という語句があるページにのみQRバーコードを追加するとします。まず、請求書という語句を条件付きトリガーとして定義します。次に、QRバーコードを定義するときに、そのトリガーをQRバーコードの条件付き配置規則として選択し、選択した場所に請求書という語句があるページにのみ印刷されるようにします。
[文書プロパティーの定義]	サンプルPDFファイル内の既存のデータを文書プロパティーとして定義し、RICOH ProcessDirectorがさまざまなステップ（バーコードの追加など）でそのデータを使用できるようにします。文書プロパティーを定義すると、後でRICOH ProcessDirectorビューアーでそれらを検索して、再印刷または他のアクションを実行できます。 PDFファイルから抽出するテキストまたはDataMatrixバーコードに文書プロパティーを定義することもできます。その場合、標準のRICOH ProcessDirector文書プロパティーは選択せず、代わりにプロパティーの独自の名前を指定します。
[複数プロパティーの定義]	テキストのブロックまたは複数セクションから文書プロパティーを定義します。
[アドレスブロックの定義]	アドレスブロックの文書プロパティーを定義します。
[領域の非表示]	PDFファイルのコンテンツを非表示にするカバーブロックを作成します。非表示コンテンツは印刷されず、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatプレビューやRICOH ProcessDirectorのPDFビューアーには表示されません。領域を非表示にして、その非表示領域の上に他のマークアップを配置できます。
[バーコードの追加]	バーコードを追加および設定します。まず、バーコードを配置する場所を選択します。次に、バーコードタイプを選択し、コンテンツを追加します。郵便物の下流プロセス用にバーコードを追加するときは、装置が必要とする正確な光学式マークについて理解し、サプライヤーが指定した構成にする必要があります。
[OMRの追加]	PDFファイルで郵便物のダウンストリーム処理を管理できるように、光学式マークを追加および構成します。OMRを追加するときは、装置が必要とする正確な光学式マークについて理解し、サプライヤーが指定した構成にする必要があります。

メニュー オプション	説明
[イメージの追加]	RGB JPEG 形式のイメージを追加して、新しいコンテンツを作成したり、既存のコンテンツを覆します。
[テキストの追加]	PDF ファイル内の任意の位置にテキストを追加します。テキストを印刷する領域を指定し、テキストの入力など、オプションの組み合わせからコンテンツを選択します。

制御ファイルを操作する

2

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用して、PDFファイルをマークアップする場合、PDFファイル自体にマークアップを保存するのではなく、制御ファイルにマークアップを保存します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、制御ファイルを使用してデータを抽出し、RICOH ProcessDirectorは、PDFファイルの印刷準備のさまざまな段階で制御ファイルを使用します。

[Ricoh] メニューオプションの [制御ファイルの読み込み] と [制御ファイルの保存] を使用して、制御ファイルを管理します。一度に読み込むことができる制御ファイルは1つだけです。PDFファイルのマークアップが終わったら、RICOH ProcessDirector がアクセスするディレクトリーに制御ファイルを保存します。RICOH ProcessDirector ワークフローは、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat 制御ファイルを使用する1つ以上のステップテンプレートを使用して構成します。

★ 重要

- リコーのサポート担当者のサポートを受けずに、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat制御ファイルを手作業で編集しないでください。
- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatバージョン3.6には、改良されたPDF処理ライブラリーが含まれています。ほとんどのPDFファイルでは、新しいライブラリーによってパフォーマンスが向上し、処理時間が短縮され、メモリー使用量が減少します。

以前のリリースで作成された制御ファイルを開くと、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、次のようなプロンプトを表示します。制御ファイルを更新して改良されたPDF処理ライブラリーを使用しますか？

[いいえ] をクリックすると、制御ファイルを次回開くときにこのメッセージが表示されます。

[はい] をクリックすると、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、制御ファイルを更新します。メッセージは再び表示されません。

制御ファイルを更新する場合は、同じ結果が得られることを確認してください。ライブラリー間でわずかな違いがあると、テキスト選択ボックスにわずかな違いが生じる可能性があります。ボックスが小さいと選択したいテキストが除外される可能性があり、ボックスが大きいと不要なテキストが含まれる可能性があります。改善されたライブラリーを使用すると、マークアップの位置が若干変更される可能性もあります。

RICOH ProcessDirectorサーバーでは、改良されたPDFライブラリーを使用する上で必要となる変更は他にありません。

- PDF 1.7ファイル用に構築された制御ファイルをPDF 2.0ファイルとともに使用するには、制御ファイルを更新して新しいライブラリーを使用する必要があります。

ページグループ定義と文書プロパティーのすべてのページは单一の制御ファイルに保存する必要があります。その单一の制御ファイルにマークアップ、メディア、および仕上げ定

義を追加したり、さまざまな制御ファイルに定義を分割できます。ページグループと文書プロパティーを定義する制御ファイルを、【IdentifyPDFDocuments】ステップテンプレートに基づくステップで指定します。マークアップ、メディア、および仕上げを定義する制御ファイルは、【BuildPDFFromDocuments】ステップに基づくステップで指定する必要があります。1つ以上の制御ファイルを作成するかどうかを決定する場合には、変更の複雑さ、マークアップを区別する方法、最も頻繁に変化するPDFファイル拡張などの印刷環境を考慮します。

2

PDFワークフローが頻繁に変更されない反復的印刷環境では、制御ファイルを1つだけ作成できます。PDFファイルをプレビューしてマークアップが印刷される場所を確認したり、メディアと仕上げのオプションが指定されているページを確認するときには、すべてのマークアップ、メディア、および仕上げを1つのビューに表示できます。1つの制御ファイルを、RICOH ProcessDirectorがアクセスするディレクトリーに移動します。【IdentifyPDFDocuments】ステップと【BuildPDFFromDocuments】ステップの両方で制御ファイルの名前と場所を定義します。

PDFファイルをプレビューしてすべてのマークアップ、メディア、および仕上げが正しく適用されることを確認する必要がある場合も、1つの制御ファイルを使用します。ファイルをプレビューすると、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、アクティブなPDFファイルに定義されているマークアップをレンダリングし、メディアと仕上げのオプションを適用します。プレビューを使用して、読み込まれていない制御ファイル内のマークアップ、メディア、および仕上げの定義を確認することはできません。

頻繁に変更される環境または予期せずに変更される環境には、複数の制御ファイルを使用することをお勧めします。さまざまなタイプの制御ファイルを使用して、変更のリスクを減らしたり、変更にすばやく対応できます。例:

- ページグループ定義が、PDFファイル内の他の定義よりも変更される可能性が低い場合、【IdentifyPDFDocuments】ステップに追加する制御ファイルにページグループ定義と文書プロパティ一定義を入れることができます。
- インサーテー機能をインストールしていて、インサーテー同士を切り替える場合は、そのたびに、ワークフローを編集する必要はありません。その代わりに、各インサーテーのバーコードマークアップを、インサーテーを識別する名前の付いた個別の制御ファイルに保存します。【BuildPDFFromDocuments】ステップで、ジョブプロパティの値と一致するシンボル表記を使用して、1つの制御ファイルの名前と場所を指定します。印刷処理時は、そのジョブプロパティの値を、ジョブに使用するインサーテーと一致する制御ファイルのファイル名に設定します。

シンボル表記でも、異なるRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat制御ファイルを必要とする入力ファイルに同じワークフローを使用できます。例えば、File1.pdfとFile2.pdfの2つの入力ファイル、および対応するFile1.ct1とFile2.ct1制御ファイルがあり、両方のファイルに同じワークフローを使用する場合、\${Job.InputFile}.ct1を【BuildPDFFromDocuments】ステップで指定した制御ファイル名として使用できます。\${Job.InputFile}.ct1を指定すると、RICOH ProcessDirectorは、.ct1拡張子を加えて、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat制御ファイルプロパティの値を入力ファイル名として設定します。

マークアップをプレビューする

サンプルPDFファイルにマークアップを追加した後に、マークアップの配置をプレビューできます。プレビューを行うことで、RICOH ProcessDirectorが制御ファイルに保存したマークアップを適用するときに、PDFファイルが予定通りに印刷されるかを確認でき

ます。プレビューでは、メディアと仕上げのオプションが目的のページに適用されることも確認できます。

複数の制御ファイルがある場合のプレビューの使用

マークアップ、メディア、および仕上げ定義の複数の制御ファイルを保存した場合、プレビューでは、読み込まれた制御ファイルに含まれている定義のみがレンダリングされます。例えば、バーコード定義を barcodes.ctl、イメージ定義を images.ctl という名前の制御ファイルに保存した場合、barcodes.ctl または images.ctl を RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat に読み込むことができます。barcodes.ctl が読み込まれている場合、バーコードの配置とコンテンツをプレビューできますが、images.ctl は読み込まれていないためイメージはプレビューできません。

ページグループトリガーと文書プロパティ定義は任意の制御ファイルに含めることができます。読み込まれていない制御ファイルにページグループが定義されている場合、ページグループに基づいた条件付き配置規則が適用された状態でマークアップ、メディア、および仕上げをプレビューすることはできません。読み込まれていない制御ファイルに文書プロパティが定義されている場合、これらの文書プロパティをマークアップのコンテンツとして選択することはできません。複数の制御ファイルを使用しているときに、可能な限り多くのマークアップをプレビューするには、まずページグループと文書プロパティを制御ファイル(例: pagegrouping.ctl)に保存します。マークアップを定義する準備が整ったら、pagegrouping.ctl を読み込んで、マークアップを追加し、結果を新しい制御ファイル(例: barcodes.ctl)に保存します。追加のマークアップを定義して、それを個別の制御ファイルに保存するには、まずpagegrouping.ctlを読み込みます。マークアップ(イメージなど)を追加し、結果を新しい制御ファイル(例: images.ctl)に保存します。ページグループおよび文書プロパティが含まれている制御ファイルを使用してマークアップの定義を行う場合は、条件付き配置規則および文書プロパティを使用するマークアップ、メディア、および仕上げをプレビューできます。

すべての拡張を 1 つの制御ファイルに保存すれば、マークアップ、メディア、および仕上げのすべてを 1 度にプレビューできます。

 **補足**

- プレビュー ファイルを編集、印刷、または保存することはできません。
- マークアップをプレビューするには、まずページグループを定義する必要があります。詳しくは、[P.27 「ページグループを定義する」](#) を参照してください。
- [処理するページ数] 設定は、[プレビュー] で処理する最大ページ数を指定します。[処理するページ数] の値を大きくするほど、PDF ファイルに追加したマークアップのプレビューに RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が掛ける時間が大きくなります。詳しくは、[P.15 「設定」](#) を参照してください。
- [実動インテント] 環境設定は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe AcrobatによるPDFファイルの解釈方法を決定します。詳しくは、[P.15 「設定」](#) を参照してください。
- [Show electronic forms] 設定によって、ファイルが使用するメディア用に定義された電子フォームとデータが結合されたときのサンプルファイルの外観を、プレビューに表示するかどうかが決定します。
- PDF ファイルでマークアップを定義する場合、ジョブプロパティーおよび文書プロパティーの値をマークアップのコンテンツとして使用したり、条件付き配置規則で使用できます。プレビューは、PDF ファイルから抽出された値を使用します。そのファイルで定義されていないジョブプロパティーまたは文書プロパティーを使用するマークアップがある場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は各ジョブプロパティーまたは文書プロパティーの固有の静的な値を使用します。条件付き配置規則が、ファイルに定義されていないプロパティーを使用する場合、通常、プレビューではそれらの規則に基づいたマークアップが常に適用される、または一切適用されないようになります。
- プラグインが見つけることができないイメージ(ローカルマシンに存在しないイメージなど)がマークアップで使用されている場合、プレビューでそのイメージはレンダリングされません。その代わりに、指定されたイメージの位置に、見つからないイメージの名前を示すメッセージが表示されます。
- Stat.CurrentMedia を評価する RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat 規則を使用して配置したマークアップは、プレビューできません。

マークアップをプレビューするには、次の手順に従います。

1. **Ricoh** → プレビューをクリックします。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat により新しい一時的な PDF ファイルが生成され、それが表示されます。サンプル PDF ファイルが開いたままです。

サンプル PDF ファイルのどのページを編集しているかにかかわらず、一時的な PDF ファイルは、1 ページ目が表示された状態で開きます。

2. ページにメディアと仕上げのオプションがある場合は、右上隅に [印刷操作] という注釈が表示されます。メディア名および仕上げオプションを表示するには、[印刷操作] のうえにマウスポインターを置きます。

または、Adobe Acrobat ツールバーの [注釈] をクリックします。[注釈] ペインに、各ページの注釈とメディアと仕上げのオプションが表示されます。

3. サンプル ファイルが使用するメディア用に電子フォームが定義されている場合、そのフォームとデータが結合されたときのファイルの外観を表示できます。

電子フォームを表示するには、次の手順に従います。

- RICOH ProcessDirector media.zipファイルをエクスポートし、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatをインストールしたシステム上の正しいディレクトリーに読み込まれていることを確認してください。プラグインへのメディアオブジェクトの読み込み方法については、ヘルプシステム、または「Ricoh ProcessDirector：文書処理機能をインストールする」を参照してください。
 - サンプルPDFファイル内のページについて、電子フォームを定義しているメディアを選択します。または、電子フォームを定義しているメディアを選択した後で、保存した制御ファイルを読み込みます。
 - [Show electronic forms] 設定が [Yes] に設定されていることを確認します。プレビューでは、データとフォームが結合された状態でファイルがどのように見えるかを確認できますが、データとフォームは別々のままで。RICOH ProcessDirectorは、[CombinePDFWithForm] ステップがファイルを処理するときに、フォームと実動PDFファイルのデータを結合します。
4. PDFファイルのプレビュー完了後は、この一時的なPDFファイルを閉じることも、そのまま開いておくこともできます。

Ricoh → プレビューをクリックして、一時的なPDFファイルを更新できます。

マークアップ定義を変更する

PDFファイルにマークアップを追加した後、マークアップを削除したり、新しい場所に移動したり、そのプロパティーを変更したりする必要があるかもしれません。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatでは、マークアップ、文書プロパティー、ページグループ定義を編集したり削除したりするための方法をいくつか提供しています。

マークアップを編集する最も一般的な方法は、描画したボックスをダブルクリックしてマークアップ定義ウィンドウを表示する方法や、ボックスをクリックして新しい場所に移動する方法です。ただし、RICOH ProcessDirector の条件付き処理に基づいてバーコードを1つだけ印刷するため同じ領域に複数のバーコードがあるなど、他のマークアップの下にマークアップが層になっていることがあります。イメージの上に非表示の領域を配置し、非表示の領域の上に小さいイメージを配置することもできます。他のマークアップの下に層になっているマークアップを編集するには、マークアップナビゲーターを使用して、編集する必要があるマークアップを選択できます。

ヒント：アクティブなPDFファイルに加えたマークアップへの変更は、以前にマークアップ定義を保存した制御ファイルに保存することを留意してください。例えば、PDFファイルにバーコードを追加してその定義を制御ファイルに保存した場合で、有効なPDFファイルからバーコードを削除した場合、その変更を既存の制御ファイルに保存する必要があります。マークアップの変更内容を制御ファイルに保存したら、それらの変更を実動PDFファイルに適用するには、制御ファイルの新しいバージョンにRICOH ProcessDirectorサーバーがアクセスできるようにする必要があります。

次のいずれかの方法を使用して、マークアップを編集できます。

マークアップを変更する方法

方法	説明
マークアップボックスをダブルクリックする	マークアップボックスのプロパティ定義ウィンドウを表示します。
マークアップボックスを右クリックする	マークアップボックスの定義を編集または削除するためのオプションが含まれたポップアップメニューを表示します。
クリックおよびドラッグして、ボックスをサイズ変更または移動する	<p>任意のボックスをクリックして、マークアップ、文書プロパティー、またはページグループの定義を行います。ボックスの隅にサイズ変更ハンドルが表示されます。ボックスの隅をクリックおよびドラッグして、ボックスをサイズ変更します。</p> <p>ボックスの中央をクリックおよびドラッグして、別の位置へボックスを移動します。</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> マークアップが他のマークアップの下にある場合は、Ricoh → マークアップナビゲーターの表示をクリックしてサイズ変更するマークアップを分離します。編集するマークアップへのアクセスをロックしているマークアップの前にあるボックスのチェックマークを外します。 マークアップ定義ウィンドウで水平および垂直座標、幅、および高さを指定して、マークアップボックスの位置とサイズを変更することもできます。 ページグループ定義または条件付きトリガーをクリック、サイズ変更、または移動する場合、その定義やトリガーが、探しているデータを含むページ上にあることを確認してください。これらの3つのアクションを行うと、ページグループ定義または条件付きトリガーのデータのサンプリングがやり直されます。いずれかのアクションを誤ったページで行った場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatによって変更の確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、データが不正確な値に変更されます。
マークアップナビゲーターで左クリックする	<p>マークアップボックスを強調表示するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> Ricoh → マークアップナビゲーターの表示をクリックします。 強調表示するマークアップをクリックします。 <p>ヒント：マークアップを追加、変更、削除するときに、マークアップナビゲーターウィンドウを開いたままにできます。ウィンドウが自動的に更新されて変更が適用されます。</p>

方法	説明
マークアップナビゲーターでダブルクリックする	<p>マークアップ、文書プロパティー、またはページグループの定義を編集するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> Ricoh → マークアップナビゲーターの表示をクリックします。 編集するマークアップをダブルクリックします。
マークアップナビゲーターを使用してマークアップを非表示にする	<p>マークアップ、文書プロパティー、またはページグループ定義を非表示にして、他のマークアップにアクセスできるようにするには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> Ricoh → マークアップナビゲーターの表示をクリックします。 チェックボックスのオンとオフを切り替えて、次の項目を表示および非表示にします。 <ul style="list-style-type: none"> マークアップ、文書プロパティー、またはページグループトリガー用に描画したボックス。 マークアップのグループ。例えば、すべてのイメージマークアップボックスを非表示にするには、[イメージ] チェックマークを外します。 <p> 補足</p> <p>マークアップナビゲーターを使用してマークアップを非表示にすると、アクティブな PDF ファイルのビューでのみ非表示になります。非表示のマークアップが含まれている制御ファイルがある場合に制御ファイルを保存した場合、非表示のマークアップは制御ファイルに保存され、その中の定義がすべて RICOH ProcessDirector によって処理されます。</p>

ページグループを定義する

ページグループは、PDF ファイル内の各文書のページ範囲を定義します。RICOH ProcessDirector IdentifyPDFDocuments ステップで指定する制御ファイルに、1 つのページグループ定義を保存します。マークアップを追加する前にページグループを定義することをお勧めします。

 **補足**

PDF ファイルあたり複数の制御ファイルを定義できますが、IdentifyPDFDocuments ステップテンプレートに基づくステップの [PDF 制御ファイルの識別] プロパティーに指定した制御ファイルのみがページグループを作成します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat のプレビューモードを使用して、その他のマークアップの正しい配置を確認する場合、状態によっては、それらのマークアップの生成に使用する制御ファイル内で、ページグループを定義する必要があります。例えば、BuildPDFFromDocuments ステップには、ページグループ定義を含む制御ファイルを追加できます。ただし、BuildPDFFromDocuments ステップは以前の IdentifyPDFDocuments ステップからページグループ情報を受信するため、BuildPDFFromDocuments ステップは、制御ファイル内のページグループ定義を無視します。ベストプラクティスについては、P.22 「マークアップをプレビューする」 を参照してください。

ページグループを定義するには、次の手順に従います。

- PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、**Ricoh** → 選択をクリックして、プラグインをアクティブなツールにします。
- テキストベースのページグループを定義するには、対象テキストを囲むボックスを描画します。それ以外の場合には、任意の場所でボックスを描画します。
- [ページグループの定義] をクリックします。

4. デフォルトのページグループ名を受け入れるか、変更します。ページグループの境界が定義されている場所が、その PDF ファイルで作業を行う他の全ユーザーにも簡単にわかるため、デフォルトの名前を使用することをお勧めします。名前を変更する場合は、スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) を使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
5. テキストベースのページグループの場合、[水平] および [垂直] 座標、[幅]、[高さ] の値を入力して、テキストを囲むボックスの位置とサイズを変更できます。ボックスの位置とサイズは [OK] をクリックした後に調整されます。
6. [ページグループ] リストで、次のいずれかを選択します。
 - [PDF全体を1つのページグループとして処理] : 処理されたすべてのページを含む1つのページグループを作成します。
 - [固定長のページグループの作成] : [ページグループ長] プロパティーの値に基づいて特定の長さのページグループを作成します。ページのグループ化は、PDF ファイルの 1 ページ目から開始します。
例えば、18 ページの PDF ファイルで 1 ~ 5、6 ~ 10、11 ~ 15、15 ~ 18 ページのページグループを作成する場合は [5] を選択します。
 - [選択したテキストが見つかったときにページグループを開始] : 選択したテキストに基づいてページグループを作成します。描画したボックス内の選択したテキストがある任意のページが、新しいページグループの最初のページになります。
例えば、[Page 1 of] を選択して、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は描画したボックス内に毎回 [Page 1 of] のテキストを検出するよう [Page 1 of] を選択して、毎回新しいページグループを作成します。

 **補足**

PDF ファイル内の文字は、空白で囲まれています。[選択されたテキスト] フィールドに、不要な文字が含まれていないことを確認してください。不要な文字が含まれている場合は、ページグループ定義をキャンセルして、テキストを囲むボックスを再描画してください。

- [指定したテキストが見つかったときにページグループを開始] : 指定したテキストに基づいてページグループを作成します。指定したテキストがボックス内にあるあらゆるページが、新しいページグループの最初のページになります。テキストは、描画したボックスと同じページにある必要はありません。

[照合方法] リストで、次のいずれかを選択します。

- [テキストの完全一致] : 指定したテキストと完全に一致します。
- [テキストの部分一致] : 描画したボックス内のテキストと指定したテキストが部分的に一致します。指定したテキストは、各ページの同じ位置にある必要はありません。

例えば、このオプションを使って、描画したボックス内の任意の場所に RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が Page 1 of を検出するようにします。ボックスには、その他のテキストも含まれられます。ボックス内で検出される Page 1 of 4 と This is Page 1 of 4 が指定したテキストである Page 1 of を一致します。

- [ワイルドカードを使ったテキストの一致 [* or ?]] : ワイルドカード文字を任意の文字として解釈することにより、そのワイルドカード文字を含む、指

定されたテキストと一致します。アスタリスク (*) は、ゼロ個以上の文字と一致します。疑問符 (?) は、単一の文字として一致します。

例えば、それぞれの郵便物の最初のページには、7桁の数字が続く A で始まるアカウント番号が含まれています。アカウント番号の位置は、それぞれのステートメントによって異なります。各明細書にアカウント番号を含めるのに十分な大きさのボックスを描き、[照合するテキストの指定] プロパティーの値として A??????* と入力します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、各ページで A1265581 や A6428229 などのアカウント番号で新しいページグループを開始します。

補足

[照合するテキストの指定] プロパティーの値として A??????* を入力した場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、6桁以上のアカウント番号を検出すると、新しいページグループを開始します。

- [Javaの正規表現を使ってテキスト一致] : 指定した Java 正規表現を使用してテキストを一致させます。

たとえば、それぞれの郵便物は、英語かスペイン語の2つの言語のいずれかで表示されるとします。[照合するテキストの指定] プロパティーの値として (Page 1 of).*(Página 1 de).* と入力します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、Page 1 of の後に任意の数の文字が続くテキスト、または Página 1 de の後に任意の数の文字が続くテキストを検出すると、新しいページグループを開始します。例：Page 1 of、Page 1 of 6、Página 1 de 2、または Página 1 de 10。

補足

詳しくは、java.util.regex.Pattern クラスの Java の資料を参照してください。

- [選択した領域でテキストが変更されたときにページグループを開始] : 描画したボックス内のテキストが変化したときにページグループを作成します。変更になったテキストを含むページが、新しいページグループの最初のページになります。

たとえば、アカウント番号を囲むようにボックスを描画します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、描画したボックス内に新しいアカウント名が表示されるたびにページグループを作成します。

重要

この種類のページグループにボックスを描画する場合には、すべてのページ上のボックスの位置に評価するテキストまたは空白(テキストなし)のみがふくまれていることを確認します。その他のテキストがボックス内に表示された場合には、不要なページグループが識別されます。ボックスの場所に空白を含むページは、新しいページグループを開始しません。

- [テキストまたは描画されたオブジェクトが検出されたときにページグループを開始] : 描画したボックスにグラフィックオブジェクトまたはテキストのいずれかが囲まれているときにページグループを作成します。描画したボックスにテキストやグラフィック全体が含まれていない場合、そのページは新しいページグループの先頭なりません。

補足

すべてのマークがグラフィックであるわけではありません。一部のマークがイメージデータです。

7. [OK] をクリックします。
8. **Ricoh** → ページグループナビゲーターの表示をクリックして、ページグループが正しいページ上で開始していることを確認します。
テキストベースのページが正しいページ上で開始しない場合は、描画したボックスが選択または指定したテキストに対して正しいサイズになっていない可能性があります。問題を見つけるために、ページグループを確認します。その後、ボックスの再描画またはテキストの変更、あるいはその両方を行います。
9. ページグループ定義を編集するには、ページグループを表しているボックスをダブルクリックするか、**Ricoh** → ページグループナビゲーターの表示をクリックして、ページグループ名をダブルクリックします。
10. 新しいページグループの定義を含むすべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。

2

文書プロパティーを操作する

PDF ファイル内のデータから文書プロパティーを定義して、後の印刷処理に使用できます。文書プロパティー一定義を使用して RICOH ProcessDirector により PDF ファイルを処理する場合、PDF ファイル内の各ページグループから値が抽出されます (データマイニング)。たとえば、文書プロパティーを作成して、PDF ファイル内の各ページグループのデータを抽出し、そのデータを同じページグループの特定のページに印刷するバーコードのコンテンツとして定義できます。

文書プロパティーを定義する場合、PDF ファイル内にデータを指定します。条件付きの処理規則を適用して、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat および RICOH ProcessDirector にデータを抽出する場所とタイミングを通知できます。例えば、アカウントが期限切れになったときに、各ページグループの最初のページからアカウント番号を抽出する条件付き処理規則を適用できます。まず、アカウントが期限切れになったことを示すテキストに条件付きトリガーを作成します。次に 2 つの条件のある規則を定義します。1 つの条件は「期限切れ」というテキストが存在することを指定し、もう 1 つの条件は事前定義された規則【先頭のフロントページのみ】を指定します。そして、すべての条件が満たされたときに新しい規則が適用されるようにします。最後に、アカウント番号を文書プロパティーとして定義し、配置条件セクションで新しい規則を選択します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat と RICOH ProcessDirector は、【延滞】のテキストがある場合に、各ページグループの最初のフロントページからアカウント番号を抽出します。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat で文書プロパティーを定義する際には、RICOH ProcessDirector 文書プロパティーをリストから選択するか、独自の文書プロパティー名を定義します。RICOH ProcessDirector の文書プロパティーを選択する代わりに、独自の文書プロパティー名を定義する場合、この文書プロパティーは、データベースにプロパティーを保存する RICOH ProcessDirector 機能に統合できません。RICOH ProcessDirector の文書処理機能、またはバーコードやテキスト内のマークアップコンテンツに対して、この文書プロパティーを使用することはできません。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat で独自の文書プロパティーを作成するのは、文書プロパティーをファイルに抽出する場合や、PDF ファイルの処理時に文書プロパティーが RICOH ProcessDirector に存在するとわかっている場合に限定する必要があります。RICOH ProcessDirector で文書プロパティーを使用する必要がある場合は、RICOH ProcessDirector で文書プロパティーを作成し、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat のリストから文書プロパティーを選択します。

↓ 補足

- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatのリストと RICOH ProcessDirectorの文書プロパティーリストには、文書プロパティーのデータベース名またはシステム名が表示されます。それらのリストには、カスタムまたは変換済み文書プロパティー名が表示されません。

文書プロパティー値を保存する

文書プロパティー値を製品の外部で使用する必要がある場合、文書プロパティー値の表示中に [保存] をクリックします。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatはタブ区切りのテキストファイルに値を保存します。

RICOH ProcessDirectorで文書プロパティーを使用する

異なる RICOH ProcessDirector 印刷処理ステップ内で文書プロパティーを使用する方法を定義します。例えば、バーコード作成機能で RICOH ProcessDirector が文書プロパティーを使用する方法を定義します。また特定の顧客の郵便物を再印刷する必要がある場合、文書プロパティー値を使用して、PDF 印刷ジョブから特定の顧客アカウントを検索できます。

RICOH ProcessDirectorで新しい文書プロパティーを使用する

文書処理機能をインストールした後、`docCustomDefinitions.xml` ファイル内で、必要なすべてのカスタム文書プロパティーを定義します。構成ファイルを更新するために `[docCustom]` ユーティリティを実行すると、それらのプロパティーがデータベースに追加されます。追加のカスタム文書プロパティーを作成する必要がある場合は、`docCustomDefinitions.xml` ファイルを編集して、`[docCustom]` ユーティリティを再び実行します。

↓ 補足

- バージョン3.11.2以降、カスタム文書プロパティーを使用する場合は、[管理] タブで オブジェクト → カスタムプロパティーを使用して作成できます。
データベース名と、プロパティーノートブックと列見出しに表示されるラベルを選択できます。また、`docCustomDefinitions.xml` ファイルに追加することなしに、プロパティーに格納されるデータの種類と、異なるユーザーグループがプロパティーに対して持つデフォルトのアクセスも選択できます。
- `docCustomDefinitions.xml` ファイルで定義されているカスタム文書プロパティーがある場合は、そのプロパティーを継続して使用することができます。[管理] タブから再作成しないでください。このタブは、新しいジョブまたはドキュメントのプロパティーを作成する場合にのみ使用します。

新しい文書プロパティー値をロードした場合、それ以降、プラグイン内では、文書プロパティーを定義するあらゆる場所で、これらの値を利用できるようになります。

`docCustomDefinitions.xml` ファイルの編集と `[docCustom]` ユーティリティの実行の詳細は、「RICOH ProcessDirector文書処理機能をインストールする」を参照してください。

↓ 補足

- 文書プロパティーを定義するとき、文書プロパティーは、制限された文書プロパティーとして定義できます。制限された文書プロパティーはデータベース表スペースを必要としませんが、プロパティーを含む各文書プロパティーファイル内の文書ごとにスペースを占めます。

文書プロパティーを定義する

RICOH ProcessDirector機能は、RICOH ProcessDirectorデータベースに文書プロパティーの値を保存できます。この機能は、RICOH ProcessDirector内のPDFファイルの遅れたダウンストリーム処理を実行するために文書プロパティーに依存します。

 補足

2

- RICOH ProcessDirector 機能を最大限に活用できるように、文書プロパティーの概要セクションを参照して、文書プロパティーを RICOH ProcessDirector で使用する方法を確認してください。

文書プロパティーを定義するには、次の手順に従います。

1. PDFファイルをAdobe Acrobat Professionalで開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
 2. キャプチャーするデータの左上隅の少し上の部分を左クリックします。マウスをドラッグしてデータを囲むボックスを描画します。
- 後で抽出された値を表示して、選択を確認できます。

 補足

- キャプチャーするデータは、テキスト、または画像としてエンコードされた DataMatrixバーコードです。
 - ボックスは、PDF ファイル内の最も長いデータをキャプチャーすることが可能な十分な大きさにしてください。PDF ファイル内的一部の文字には、文字の間隔を空けるために、他の文字よりも空白領域を大きく使用するものもあります。例えば、大文字のアルファベットを取り込む場合、その大文字の左側に、最大 10 分の 1 インチの空白領域を確保する必要があります。
3. ポップアップメニューから [文書プロパティーの定義] を選択します。
 4. リストからRICOH ProcessDirector文書プロパティーを選択するか、文書プロパティ一名をフィールドに入力します。特殊文字 (@、#、\$、%、- (ハイフン) など) やスペースは使用しないでください。RICOH ProcessDirector [IdentifyPDFDocuments] ステップが失敗する可能性があります。ピリオドとアンダースコアは使用できます。

 補足

- 文書プロパティーを定義する場合、文書プロパティーは何度でも定義できます。例えば、PDF ファイルのテキストは変更される可能性があり、さらに 2 つの異なる場所から郵便番号を抽出する必要があると仮定します。プロパティーを抽出するページを指定する条件付き配置規則を、それぞれ異なる規則として定義する限り、郵便番号の文書プロパティーを 2 回定義できます。文書内で 2 つの方法で同じ文書プロパティーを定義して、両者の条件が満たされた場合、最後に抽出された値が使用されます。
5. 値を抽出するデータの種類を定義します。
 - テキストのみを含む領域を選択した場合は、[選択元] から [テキスト] を選択します。

- バーコードのみを含む領域を選択した場合は、[選択元] から [バーコードイメージ] を選択します。
 - テキストとバーコードの両方を含む領域を選択した場合は、[テキスト] および [バーコードイメージ] の両方を選択します。
- テキストデータは抽出された文字列内のバーコードデータの前に配置され、テキストデータの終了位置およびバーコードデータの開始位置が示されません。

▼ 補足

- 黒いバーコードを使用することをお勧めします。色付きのバーコードを使用すると、想定外の結果が生じることがあります。

6. 文書プロパティーデータを抽出する各文書内のページを指定します。次のいずれかを行ってください。

- [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は、[先頭のフロントページのみ] です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。

★ 重要

- [最後のバックページのみ]、[最後のフロントページのみ]、および [最後のページのみ] 規則は、文書プロパティーデータの抽出では使用できません。
- [特定のページ数] を選択し、必要な各文書内のページを入力します。
複数のページを指定した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat によって、各文書内の最後に指定したページから文書プロパティーデータが抽出されます。例:
 - ページ2-4を指定します。文書に4つ以上のページがある場合は、4ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。文書に3つのページがある場合、文書プロパティーデータは3ページ目から抽出されます。文書に2つのページがある場合は、2ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。
 - ページ2,4を指定します。文書に4つ以上のページがある場合は、4ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。文書に2～3ページがある場合は、2ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。
 - ページ2-nを指定します。nは最後のページを表すので、文書が2ページ以上の場合には、最後のページから文書プロパティーデータが抽出されます。

★ 重要

- ◆ nページのみを指定した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、文書のどのページからも文書プロパティーデータを抽出しません。

7. オプション： [テキストの変更] ウィンドウを表示するには、編集アイコン () を選択します。このウィンドウでは、必要とされる正確な文書プロパティーを抽出するために、1つ以上の変更子抽出規則を定義します。

1. 次の変更子のいずれかを選択します。

コンテンツ変更子

変更者	アクション
[文字の削除]	<p>値から削除する1文字またはブランク文字(ブランク文字を入力するときはスペースバーを使用します)を入力します。大文字と小文字は区別されます。次に、次のいずれかのボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [文字のすべてのインスタンスの削除] 指定の文字が値のすべての位置から削除されます。 例えば、顧客番号が324-1443255-11だとします。「-」を入力した場合、値からすべての「-」文字が削除され、324144325511となります。 ・ [先行文字の削除] 指定の文字が値の先頭から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭から削除されます。 ・ [末尾文字の削除] 指定の文字が値の末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の末尾から削除されます。 ・ [先行文字と末尾の文字を削除] 指定の文字が値の先頭と末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭と末尾から削除されます。
[位置によるサブ文字列]	[開始位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。テキスト値の最初の文字の位置を示すために、[最初の位置] に数値を指定します。保持する文字数を示すために、[保持する数] に数値を指定します。

変更者	アクション
[区切り文字によるサブ文字列]	<p>テキスト値が別々の文字列セグメントに分割される位置を示すために、[区切り文字] フィールドに文字またはブランク文字を入力します。文字とテキスト文字列では、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>[開始位置] ドロップダウンメニューから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。</p> <p>テキスト文字列内での区切り文字の位置を定義するために、[最初の位置] に数値を指定します。</p> <p>保持するテキスト文字列セグメントの数を定義するために、[保持する数] に数値を指定します。</p> <p>これらの例では、区切り文字を指定することによってテキストセグメントを選択する方法を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> アカウント番号 324-1443255-11 の場合、- を区切り文字として使用して、値を 3 つのテキストの 324、1443255、11 に分割できます。[行の先頭] をクリックします。2 番目と 3 番目のテキスト文字列 (1443255、11) を選択する場合、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [2] を選択します。 郵送先住所 Eldorado Springs CO 80025 の場合、ブランク文字を区切り文字として使用して値を 4 つのテキストの Eldorado、Springs、CO、80025 に分割できます。[行の末尾] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 郵便番号を選択するには、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [1] を選択します。 状態を選択するには、[最初の位置] で [2] を選択し、[保持する数] で [1] を選択します。 都市を選択するには、[最初の位置] で [3] を選択し、[保持する数] で [10] を選択します。[保持する数] で [10] を指定することによって、10 個の単語までの都市名を選択できます。
[文字を埋め込む]	<p>[パディング位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。[埋め込む文字] フィールドに埋め込み文字として特定の文字またはブランク文字を入力します。</p> <p>テキストの最小長を定義するために、[最小埋め込みテキスト長] フィールドに数値を入力します。テキスト文字列の文字数がこの最小長より短い場合、テキスト文字列の長さが最小長と等しくなるまで埋め込み文字が追加されます。</p>

変更子を使用してテキスト抽出規則を定義すると、[テキストの変更] ウィンドウの一番上にある [変更するテキスト] フィールドには、選択した行と、その行に適用される編集内容が表示されます。変更子の右側にある [変更された値] フィールドには、上位にある変更子から受信したテキスト、または [変更するテキスト] フィールド (最初の変更子を定義している場合) から受信したテキストに変更子が適用された場合の処理結果が表示されます。

- 選択した行から求めている値が抽出されるまで、引き続き変更子を適用していきます。新変更子を追加するには、 アイコンをクリックします。変更子リストの下にある [最終テキスト] フィールドには、すべての変更子抽出規則が適用された後、最終的に変更された値が表示されます。

ウィンドウの一番下にある【変更対象のイニシャル文字】フィールドには、選択した変更子に対して、変更子が適用される前の値が表示されます。【変更されたテキスト】フィールドには、変更子が適用された後の値が表示されます。

3. ウィンドウの上部にある変更子管理アイコンを使用して、変更子抽出規則を削除したり、適用の順番を変更したりします。選択した変更子抽出器を削除するには、を使用します。規則の順序を変更するには、上下の矢印アイコンを使用します。規則は上から下に順番に行に適用されます。

2

4. 行の抽出規則を保存するには、【OK】ボタンをクリックします。

8. 【OK】をクリックして、文書プロパティーを作成します。
9. **Ricoh** → 文書プロパティー値の表示をクリックし、PDF ファイル内でいくつかの文書をスクロールして、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が各文書の正しい文書プロパティー値を抽出していることを確認します。
10. 新しい文書プロパティー一定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。
11. RICOH ProcessDirector [IdentifyPDFDocuments] ステップで、文書プロパティー一定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

複数の文書プロパティーを定義する

PDF ファイル内のデータのブロックで複数の文書プロパティーを定義できます。データのブロックは、テキスト、画像としてエンコードされた DataMatrix バーコード、またはその両方です。

補足

- RICOH ProcessDirector 機能を最大限に活用できるように、文書プロパティーの概要セクションを参照して、文書プロパティーを RICOH ProcessDirector で使用する方法を確認してください。

複数の文書プロパティーを定義するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. キャプチャーするデータのブロックの左上隅の少し上の部分をクリックします。マウスをドラッグしてデータのブロックを囲むボックスを描画します。後で抽出された値を表示して、選択を確認できます。

補足

- ボックスは、PDF ファイル内のほとんどのデータ行のうち、最も長い行をキャプチャーすることが可能な十分な大きさにしてください。PDF ファイル内的一部の文字には、文字の間隔を空けるために、他の文字よりも空白領域を大きく使用するものもあります。例えば、大文字のアルファベットまたはその行を取り込む場合、その大文字の左側に、最大 10 分の 1 インチの空白領域を確保する必要があります。

3. ポップアップメニューから【複数プロパティーの定義】を選択します。

4. 複数の文書プロパティーのブロックの [名前] を入力します。名前には、スペースや特殊文字 (@、#、\$、%、- (ハイフン) など) を使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
5. 値を抽出するデータの種類を定義します。
 - テキストのみを含む領域を選択した場合は、[選択元] から [テキスト] を選択します。
 - バーコードのみを含む領域を選択した場合は、[選択元] から [バーコードイメージ] を選択します。
 - テキストとバーコードの両方を含む領域を選択した場合は、[テキスト] および [バーコードイメージ] の両方を選択します。
テキストデータは抽出された文字列内のバーコードデータの前に配置され、テキストデータの終了位置およびバーコードデータの開始位置が示されません。
6. 文書プロパティーデータを抽出する各文書内のページを指定します。次のいずれかの手順を実行します。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、リストから規則を選択します。デフォルトの規則は、「先頭のフロントページのみ」です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。

 **重要**

- [最後のバックページのみ]、[最後のフロントページのみ]、および [最後のページのみ] 規則は、文書プロパティーデータの抽出では使用できません。
- [特定のページ数] を選択し、必要な各文書内のページを入力します。
複数のページを指定した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatによって、各文書内の最後に指定したページから文書プロパティーデータが抽出されます。例:
 - ページ2-4を指定します。文書に4つ以上のページがある場合は、4ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。文書に3つのページがある場合、文書プロパティーデータは3ページ目から抽出されます。文書に2つのページがある場合は、2ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。
 - ページ2,4を指定します。文書に4つ以上のページがある場合は、4ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。文書に2～3ページがある場合は、2ページ目から文書プロパティーデータが抽出されます。
 - ページ2-nを指定します。nは最後のページを表すので、文書が2ページ以上の場合は、最後のページから文書プロパティーデータが抽出されます。

 **重要**

- ◆ nページのみを指定した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、文書のどのページからも文書プロパティーデータを抽出しません。

7. 定義ウィンドウの [文書プロパティー] セクションを使用して、文書プロパティーを選択し、プロパティー抽出規則を定義します。このセクションには、選択したテキストの第1行の完全なテキストデータが含まれます。既存のテキストブロックの編集を選択すると、このセクションには、テキストブロックに対して定義したすべての文書プロパティーが含まれます。新しい文書プロパティーとそれに関連する変更子抽出規則を定義するには、次の手順に従います。
1. 追加アイコン (+) をクリックして新しい文書プロパティ一定義行を追加します。
 2. [プロパティー] リストからRICOH ProcessDirector文書プロパティーを選択します。文書プロパティー名を入力して、独自の文書プロパティーを定義できますが、その文書プロパティーは RICOH ProcessDirector では使用できません。独自の文書プロパティーを定義するのは、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用して文書プロパティー値をテキストファイルにエクスポートする場合に限定してください。
 3. 選択した文書プロパティーの抽出元として、テキストブロックの特定の行を [行] で選択します。トップダウンまたはボトムアップの参照を使用して、行を選択できます。トップダウンの参照を使用して行を選択するには、[1] ~ [n] を選択します ([n] は正の整数です)。ボトムアップの参照を選択するには、[最終] または最終 - x (x は最終行よりも何行前かを示します) を選択します。リストから行の値を選択する代わりに、行番号を直接 [行] フィールドに入力できます。
 4. [テキストの変更] ウィンドウを表示するには、編集アイコン () を選択します。このウィンドウでは、必要とされる正確な文書プロパティーを抽出するために、1つ以上の変更子抽出規則を定義します。
 5. 次の変更子のいずれかを選択します。

コンテンツ変更子

変更者	アクション
[文字の削除]	<p>値から削除する 1 文字またはブランク文字 (ブランク文字を入力するときはスペースバーを使用します) を入力します。大文字と小文字は区別されます。次に、次のいずれかのボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [文字のすべてのインスタンスの削除] 指定の文字が値のすべての位置から削除されます。 例えば、顧客番号が324-1443255-11だとします。「-」を入力した場合、値からすべての「-」文字が削除され、324144325511となります。 • [先行文字の削除] 指定の文字が値の先頭から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭から削除されます。 • [末尾文字の削除] 指定の文字が値の末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の末尾から削除されます。 • [先行文字と末尾の文字を削除] 指定の文字が値の先頭と末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭と末尾から削除されます。
[位置によるサブ文字列]	[開始位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。テキスト値の最初の文字の位置を示すために、[最初の位置] に数値を指定します。保持する文字数を示すために、[保持する数] に数値を指定します。

変更者	アクション
[区切り文字によるサブ文字列]	<p>テキスト値が別々の文字列セグメントに分割される位置を示すために、[区切り文字] フィールドに文字またはブランク文字を入力します。文字とテキスト文字列では、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>[開始位置] ドロップダウンメニューから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。</p> <p>テキスト文字列内での区切り文字の位置を定義するために、[最初の位置] に数値を指定します。</p> <p>保持するテキスト文字列セグメントの数を定義するために、[保持する数] に数値を指定します。</p> <p>これらの例では、区切り文字を指定することによってテキストセグメントを選択する方法を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> アカウント番号 324-1443255-11 の場合、- を区切り文字として使用して、値を 3 つのテキストの 324、1443255、11 に分割できます。[行の先頭] をクリックします。2 番目と 3 番目のテキスト文字列 (1443255、11) を選択する場合、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [2] を選択します。 郵送先住所 Eldorado Springs CO 80025 の場合、ブランク文字を区切り文字として使用して値を 4 つのテキストの Eldorado、Springs、CO、80025 に分割できます。[行の末尾] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 郵便番号を選択するには、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [1] を選択します。 状態を選択するには、[最初の位置] で [2] を選択し、[保持する数] で [1] を選択します。 都市を選択するには、[最初の位置] で [3] を選択し、[保持する数] で [10] を選択します。[保持する数] で [10] を指定することによって、10 個の単語までの都市名を選択できます。
[文字を埋め込む]	<p>[パディング位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。[埋め込む文字] フィールドに埋め込み文字として特定の文字またはブランク文字を入力します。</p> <p>テキストの最小長を定義するために、[最小埋め込みテキスト長] フィールドに数値を入力します。テキスト文字列の文字数がこの最小長より短い場合、テキスト文字列の長さが最小長と等しくなるまで埋め込み文字が追加されます。</p>

変更子を使用してテキスト抽出規則を定義すると、[テキストの変更] ウィンドウの一番上にある [変更するテキスト] フィールドには、選択した行と、その行に適用される編集内容が表示されます。変更子の右側にある [変更された値] フィールドには、上位にある変更子から受信したテキスト、または [変更するテキスト] フィールド (最初の変更子を定義している場合) から受信したテキストに変更子が適用された場合の処理結果が表示されます。

- 選択した行から求めている値が抽出されるまで、引き続き変更子を適用していきます。新変更子を追加するには、 アイコンをクリックします。変更子リストの下にある [最終テキスト] フィールドには、すべての変更子抽出規則が適用された後、最終的に変更された値が表示されます。

ウィンドウの一番下にある【変更対象のイニシャル文字】フィールドには、選択した変更子に対して、変更子が適用される前の値が表示されます。【変更されたテキスト】フィールドには、変更子が適用された後の値が表示されます。

7. ウィンドウの上部にある変更子管理アイコンを使用して、変更子抽出規則を削除したり、適用の順番を変更したりします。選択した変更子抽出器を削除するには、を使用します。規則の順序を変更するには、上下の矢印アイコンを使用します。規則は上から下に順番に行に適用されます。
8. 行の抽出規則を保存するには、【OK】ボタンをクリックします。
9. 引き続き、ブロック内の行から抽出する必要があるその他の文書プロパティーを定義します。別の文書プロパティーで使用している同じ行を選択できます。文書プロパティーを削除する必要がある場合、または文書プロパティーの順序を変更する場合は、文書プロパティーの前にあるチェックボックスをオンにして、アイコンと上下矢印アイコンを使用します。
10. **Ricoh** → 文書プロパティー値の表示をクリックして、プロパティーに目的のコンテンツが含まれていることを確認します。
11. **オプション**：ボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックして【編集】を選択して、テキストブロックの定義を編集できます。
12. 新しい文書プロパティー定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。
13. 制御ファイルを RICOH ProcessDirector サーバーが使用しているディレクトリーに移動して、RICOH ProcessDirector [IdentifyPDFDocuments] ステップに、この制御ファイルの名前と場所を含めます。この制御ファイルには、このステップで処理される PDF ファイル内の文書を定義するページグループ定義も含める必要があります。

アドレスブロックを定義する

PDF ファイル内の各文書のアドレスブロックで文書プロパティーを定義できます。文書プロパティーを定義した後に、それらを抽出して表示したり、テキストファイルに保存することができます。

補足

次の場合は、【複数のプロパティーの定義】機能を使用して、アドレスの文書プロパティーを定義します。

- アドレスコンポーネントがブロックの形式になっていない。
- 文書プロパティーに独自の名前を付ける必要がある。
- 【アドレスブロックの定義】機能によってアドレステキストの 1 つ以上のコンポーネントが誤った文書プロパティーに割り当てられている。

アドレスブロックを定義するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。

ヒント：アドレスブロックを選択する前に、サンプルPDFファイルをスキャンして、処理しようとしているPDFファイルの中で最も複雑で最も長いアドレスを探します。例えば、PDFファイル内の最初の文書にわずか3行のアドレスが含まれており、80ページに5行のアドレスがあった場合、最も複雑なアドレスに対応できるように、5行のアドレスを囲むボックスを描画します。文書プロパティーの値を表示したときに、短いアドレスブロック内の各文書プロパティーにプロパティー値が指定されていることを確認できます。

2. アドレスの全行を取り込むには、アドレス領域の左上隅を左クリックして、マウスをドラッグします。
3. ポップアップメニューから [アドレスブロックの定義] を選択します。
4. [アドレスブロックの定義] ウィンドウで [選択したアドレス] セクションを確認します。アドレスブロックのすべての行を取り込んでいない場合は、[キャンセル] をクリックし、アドレスを囲むボックスをもう一度描画します。必要なアドレスが [選択したアドレス] テーブルの行に表示されるまで、このステップを繰り返します。
5. アドレスブロックの [名前] を入力します。
6. [抽出条件] セクションを使用して、各文書内のアドレスブロックデータの抽出元のページを指定します。次のいずれかを行ってください。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は、[先頭のフロントページのみ] です。次のこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。

 **重要**

[最後のバックページ]、[最後のフロントページ]、および [最後のページ] 規則は、アドレスブロックの抽出では使用できません。

- [特定のページ数] を選択し、必要な各文書内のページを入力します。複数のページを指定した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatによって、各文書内の最後に指定したページからアドレスブロックが抽出されます。例：
 - ページ2-4を指定します。文書が4ページ以上の場合は、ページ4からアドレスブロックが抽出されます。文書が3ページで構成される場合は、ページ3からアドレスブロックが抽出されます。文書が2ページで構成される場合は、ページ2からアドレスブロックが抽出されます。
 - ページ2,4を指定します。文書が4ページ以上の場合は、ページ4からアドレスブロックが抽出されます。文書が2～3ページで構成される場合は、ページ2からアドレスブロックが抽出されます。
 - ページ2-nを指定します。nは最後のページを表すので、文書が2ページ以上の場合は、最後のページからアドレスブロックが抽出されます。

 **重要**

ページnのみを指定した場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、文書のどのページからもアドレスブロックを抽出しません。

7. アドレスのタイプを選択します。

- [アドレス行 1 ~ 7]

このオプションは、アドレスブロックの最初の 7 行を基にして 7 個の文書プロパティー ([Doc.Address.1] ~ [Doc.Address.7]) を定義します。後続の行は無視されます。

- [米国アドレス]

このオプションは次の 8 個の文書プロパティーを定義します。

- [Doc.Address.FullName]
- [Doc.Address.Primary]
- [Doc.Address.Secondary]
- [Doc.Address.Other]
- [Doc.Address.City]
- [Doc.Address.State]
- [Doc.Address.ZipCode]
- [Doc.Address.CityStateZip]

[選択したアドレス] のアドレステキストの各コンポーネントが、[アドレス文書プロパティー] 領域の文書プロパティーの値になります。

2

8. 各文書プロパティーに値が設定されていることを確認します。

9. [OK] をクリックして、アドレスブロックの文書プロパティーを作成します。

10. Ricoh → 文書プロパティー値の表示をクリックして、プロパティーに目的のコンテンツが含まれていることを確認します。

11. オプション：ボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックして [編集] を選択すると、アドレスブロックの定義を編集できます。

12. アドレスブロックの新しい文書プロパティ一定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、Ricoh → 制御ファイルの保存をクリックします。

13. RICOH ProcessDirector サーバーから制御ファイルにアクセスできるようにして、IdentifyPDFDocuments ステップに制御ファイルの名前と場所を含めます。この制御ファイルには、このステップで処理される PDF ファイル内の文書を定義するページグループ定義も含める必要があります。

文書プロパティー値を表示する

サンプルPDFファイルで文書プロパティーを作成後、そのプロパティーのデータ値を表示できます。文書プロパティー値を表示して、プロパティーに対して正しい場所が選択されており、正しい条件付き抽出規則が定義されていることを確認します。文書プロパティー値をクリックして、値が含まれているページグループの最初のページを表示できます。

抽出された文書プロパティー値のテーブルを表示するには、次の手順に従います。

- PDFファイルをAdobe Acrobat Professionalで開いて、表示したい文書プロパティーを含む制御ファイルを読み込みます。

2. **Ricoh** → 文書プロパティ一値の表示をクリックします。
[文書プロパティーの表示] ウィンドウでは、[処理するページ数] 環境設定で定義したページ数に応じて、文書プロパティ一値が表示されます
 3. 表示する文書プロパティ一値の数を変更するには、[処理するページ数] の値を変更して、[更新テーブル] をクリックします。
ページ数の値を大きくするほど、文書プロパティ一値の表示に RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が掛ける時間が大きくなります。
 4. オプション：文書プロパティーテーブルの任意の行をクリックして、文書プロパティ一値が含まれているページグループの最初のページを表示します。
- ヒント：**文書プロパティーを定義する場合は、テーブル内の値の更新時にプロパティーを正しく選択したことを確認できるように、このウィンドウを開いた状態にしておきます。

文書プロパティ一値を保存する

サンプル PDF ファイル内で文書プロパティーを作成した後、これらのプロパティーのデータ値を保存できます。例えば、監査のために印刷する予定の PDF ファイル内、または過去に監査のために印刷した PDF ファイル内のアカウント番号を保存できます。

文書プロパティ一値を保存するには、次の手順に従います。

1. 文書プロパティ一値を表示しているときに、[保存] をクリックします。
 2. ファイルの場所を選択して名前を入力するか、PDF ファイルの名前と場所をそのまま使用して、ファイル拡張子を .txt にします。
 3. [保存] をクリックします。
- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、値が含まれているタブ区切りのテキストファイルを生成します。

規則を操作する

規則は、1つ以上の条件で構成されています。規則に指定されている条件を適用して、マークアップを配置したり、データを抽出したり、メディアと仕上げのオプションを指定できます。また、ある規則を、別の規則内に条件として含めることもできます。

例えば、規則を使用して次のことができます。

- PDF ファイル内の各文書の最初のページにバーコードを配置する
- 郵送先住所に含まれている都市名が「New York」の場合にお客様の名前を抽出する
- Gold Club メンバー向けの各文書の最初のページにゴールドメディアを指定する

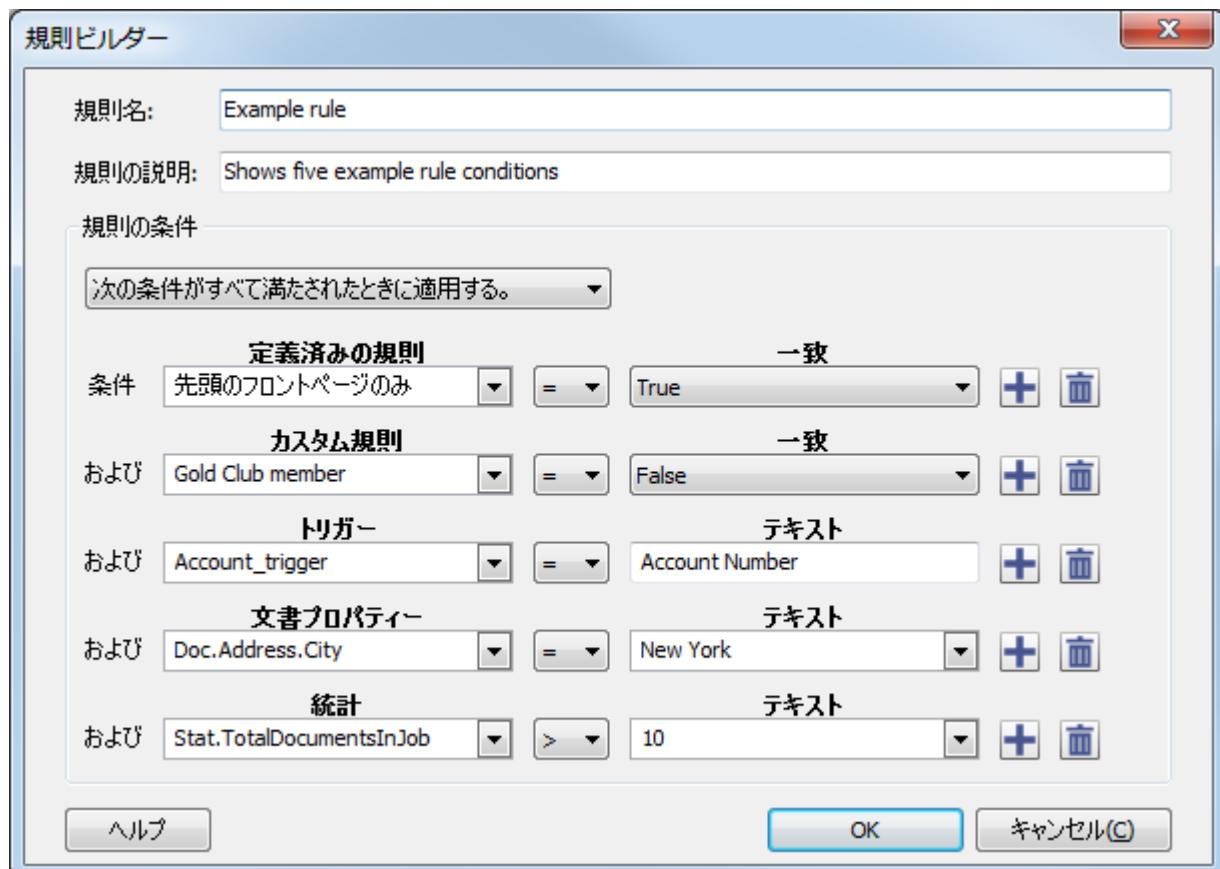
規則内の各条件は、2つの値を比較します。最初の値には、[定義済みの規則] (RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatによって定義された規則で、文書内のページを指定します) 、[カスタム規則] (ユーザーが定義した規則) 、条件付きトリガー、ジョブプロパティー、文書プロパティー、または統計を選択できます。2番目の値には、最初の値に応じた値を選択します。

複数の条件が含まれた規則を作成する場合、すべての条件を満たす必要がある、または一部の条件を満たす必要があるように規則を指定できます。

規則は、静的な値と動的な値を評価できます。例えば、規則は、ジョブ内の文書の合計数が 10 を超えているかどうかを評価できます。また、規則は、[Doc.Begin.Balance] 文書プロパティが [Doc.End.Balance] 文書プロパティの値と等しいかどうかを評価できます。

次の図に、タイプが異なる 5 つの条件が含まれた規則を示します。

複数の条件が含まれた規則



定義済みの規則

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat には、PDF ファイルの各文書内の特定のページにマークアップを適用したり、それらのページのメディアと仕上げのオプションを設定したり、それらのページからデータを抽出する 11 個の事前定義された規則があります。例えば、事前定義された規則を使用して、各文書のすべての表面ページにイメージを配置できます。

次の表に、定義済みの各規則の説明を示します。

定義済みの規則

規則	定義
すべてのフロントページ	各ページグループ内のすべてのおもて面ページです。この規則を使用して文書プロパティを定義した場合、ページグループ内の最後のおもて面ページから値が抽出されます。
すべてのバックページ	各ページグループ内のすべてのうら面ページです。この規則は片面ジョブには適用されません。この規則を使用して両面印刷ジョブの文書プロパティを定義した場合、ページグループ内の最後のおもて面ページから値が抽出されます。
すべてのページ	マークアップは、各ページグループ内のすべてのページに印刷されます。文書プロパティの値は、ページグループ内の最後のページ(おもて面またはうら面)から抽出されます。規則に条件がない場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat はこの事前定義された規則を使って規則をすべてのページに適用します。
先頭のフロントページのみ	各ページグループ内の最初のページです。
先頭のバックページのみ	各ページグループ内の先頭のバックページです。このルールは片面ジョブには適用されません。
2番目のフロントページのみ	各ページグループ内のおもて面の2番目のページです。
2番目のバックページのみ	各ページグループ内のうら面の2番目のページです。このルールは片面ジョブや、うら面の2番目のページがないジョブには適用されません。
最後のフロントページのみ	各ページグループ内のおもて面の最後のページです。
最後のバックページのみ	各ページグループ内のうら面の最後のページです。このルールは片面ジョブには適用されません。
最後のページのみ	各ページグループの最後のページ(おもて面かうら面かは関係ありません)。
ページなし	ページはありません。規則が適用されないようにするには、[No Pages = True]の条件を追加します。

条件付きトリガー

条件付きトリガーは、条件が満たされたかどうかを判断するテキストです。

ページの上部に**請求書**という語句が表示されるページにバーコードを配置するには、**請求書**という語句の条件付きトリガーを定義して、トリガーを条件として規則を定義し、規則を使用してバーコードを適用します。

ページの下部に**期限切れ**という語句が表示される場合に特別なメディアを使用するには、**期限切れ**という語句の条件付きトリガーを定義して、トリガーを条件として規則を定義し、規則を使用してメディアをセットします。

ページの右側に**アカウントの概要**という語句が表示されるときに、文書プロパティの値を抽出するには、**アカウントの概要**という語句の条件付きトリガーを定義して、トリガーを条件として規則を定義し、文書プロパティを定義するときに規則を使用します。

ヒント：条件付きトリガーとして定義する語句が、すべてのページグループで特定のページに表示されることがわかっている場合は、条件付きトリガーの代わりに [Stat. CurrentPageInDocument] 統計を使用できます。

規則でジョブプロパティーまたは文書プロパティーを使用する

ジョブプロパティーや文書プロパティーを、数値や単語などの静的な値と比較したり、ジョブプロパティー、文書プロパティー、統計などの動的な値と比較したりできます。

例えば、インサーティーが2つあり、ジョブごとにインサーティーを選択する場合、ワークフローで SetDocPropsFromConditions ステップを使用して、[Doc.Insert.InserterID] などの特定のジョブプロパティーの値を設定できます。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatでは、規則の [Doc.Insert.InserterID] ジョブプロパティーを使用できます。RICOH ProcessDirectorは、BuildPDFFromDocumentsステップに追加した（RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatで定義した条件付きの処理規則を含む）制御ファイルに基づいて特定のバーコードまたはイメージを適用できます。

補足

規則で文書プロパティー値またはジョブプロパティー値を使用する場合は、RICOH ProcessDirectorが PDF ファイル内のページグループを処理するときのプロパティーの値と一致するように値を定義してください。例えば、RICOH ProcessDirectorの [Doc.Insert.InserterID] ジョブプロパティーの値は [01] と [02] です。[Doc.Insert.InserterID] ジョブプロパティーが含まれた規則を条件として定義する場合は、これらの値を使用してください。[1] または [2] を使用しないでください。

規則で統計を使用する

統計を数値や単語などの静的な値と比較したり、ジョブプロパティー、文書プロパティー、統計などの動的な値と比較できます。

例えば、すべての文書の3番目のページにバーコードを作成する場合、[Stat.CurrentPageInDocument] の統計を選択し、数学記号の [=] を選択し、[テキスト] フィールドに [3] と入力します。図 P.45 「複数の条件が含まれた規則」の5番目の条件は、統計を指定します。

次の表に、使用可能な統計を示します。

規則の統計オプション

キーワード	レベル	定義
Stat.TotalDocumentsInJob	印刷ジョブ	現在の印刷ジョブ内の文書の総数です。
Stat.TotalSheetsInJob	印刷ジョブ	現在の印刷ジョブ内のシートの総数です。
Stat.TotalPagesInDocument	文書	現在の文書内のページの総数です。
Stat.TotalSheetsInDocument	文書	現在の文書内のシートの総数です。
Stat.CurrentDocumentInJob	文書	印刷ジョブでの現行文書の番号です。1 から始まります。例えば、3番目の文書の Stat.CurrentDocumentInJob の値は 3 です。
Stat.CurrentPageInDocument	ページ	文書での現行ページの番号です。1 から始まります。例えば、文書の2ページ目の Stat.CurrentPageInDocument の値は 2 になります。

キーワード	レベル	定義
Stat.CurrentSheetInDocument	ページ	文書に含まれている現行シートの番号です。1から始まります。
Stat.CurrentPageInJob	ページ	印刷ファイルでの現行ページの番号です。1から始まり、常にジョブの開始ページから始まります。例えば、印刷ファイルの10ページ目のStat.CurrentPageInJobは10になります。
Stat.CurrentSheetInJob	ページ	印刷ファイルでの現行シートの番号です。1から始まり、常にジョブの開始ページから始まります。
Stat.CurrentMedia	ページ	ステップが実行されたときに、印刷ジョブの現在のページに指定されたメディアです。ページに対してメディアが指定されていない場合、Stat.CurrentMediaはジョブに対して指定されたメディアになります。ページまたはジョブに対してメディアが指定されていない場合は、Stat.CurrentMediaには値がありません。例えば、ある文書の最初のページに対するStat.CurrentMediaの値は、「レターヘッド」です。

↓ 補足

- Stat_CurrentMediaがRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatを使用してメディアを指定することはありません。
- Stat.CurrentMediaを評価するRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat規則を使用して配置したマークアップは、プレビューできません。

↓ 補足

ジョブレベルの値を記述する統計もありますが、RICOH ProcessDirectorは、マークアップを適用するか、文書プロパティの値を抽出するかを決定する際に、文書内の各ページを評価します。

規則を定義する

マークアップの条件を指定する規則を定義できます。また、メディアや仕上げのオプションを設定するための規則、およびデータを抽出するための規則を定義することもできます。

規則を定義する前に、規則内で条件として使用する、各スタンダム規則、文書プロパティ、および条件付きトリガーを定義したことを確認してください。

規則を定義するには、次の手順に従います。

1. **Ricoh** → 規則の管理をクリックします。
2. アイコンをクリックします。

規則名は、アルファベット順で表示されます。

ヒント：マークアップダイアログでは、アイコンをクリックして規則を定義したり、アイコンをクリックして規則を編集したりできます。

3. 規則の【名前】を入力します。英数字、ピリオド、アンダースコア、スペース、および特殊文字 (@、#、\$、% など) を使用できます。
4. オプション：【説明】を入力します。
5. 一部の条件が満たされた場合、またはすべての条件が満たされた場合のどちらの場合に RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が規則を適用するかどうかを指定します。
6. 最初の条件を指定します。
 1. 【設定なし】ドロップダウンリストの下矢印をクリックします。
 2. 【定義済みの規則】、【カスタム規則】、【トリガー】、【ジョブプロパティ】、【文書プロパティー】、または【統計】の隣にある【+】アイコンをクリックして、条件の最初の部分とする項目を選択します。

選択肢(カスタム規則、条件付きトリガー、文書プロパティーなど)に項目が含まれていない場合、選択肢はグレー表示されます。

補足

特定の語句が名前に含まれているすべての項目を表示するには、語句を入力して、キーボードの下矢印を押します。語句を入力して、ドロップダウンリストの下矢印をクリックすることでも項目を表示できます。

3. 条件の 2 つの部分を比較するには、数学記号 [=] (等しい) または [≠] (等しくない) を選択します。
4. 条件の 2 番目の部分を指定します。
 - 規則の場合は、[True] または [False] を選択します。
 - 条件付きトリガーの場合は、条件に目的の値が指定されていることを確認します。目的の値が指定されていない場合は、新しい条件付きトリガーを選択します。
 - ジョブプロパティー、文書プロパティー、または統計の場合は、値を入力します。また、任意のジョブプロパティー、文書プロパティー、または統計を選択することもできます。
7. 複数の条件を持つ規則の場合は、アイコンをクリックして、次の条件を指定します。
規則内のすべての条件を定義するまで、このステップを繰り返します。
8. [OK] をクリックして、規則を作成し、それを【規則マネージャー】に追加します。

例

条件が 1 つの規則：定義済みの規則

各文書の最初の表紙ページにマークアップを配置するには、定義済みの規則が唯一の条件として含まる規則を定義します。First Front Only = True

それぞれに 1 つの条件が含まれた 3 つの規則: 文書プロパティー

ジョブには、営業成績に応じてブロンズ、シルバー、ゴールドの3つのレベルに分かれ、会員向けのセールスステートメントが含まれています。各メンバーシップレベルを識別するとします。

- RICOH ProcessDirectorで、文書プロパティーを定義します： [doc.member.level]。
- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatで、次の 3 つの規則を定義します。
 - [ゴールドレベル]
doc.member.level = GOLD
 - [シルバーレベル]
doc.member.level = SILVER
 - [ブロンズレベル]
doc.member.level = BRONZE

2

複数の条件が含まれた規則

ジョブには、営業成績に応じてブロンズ、シルバー、ゴールドの3つのレベルに分かれた、会員向けのセールスステートメントが含まれています。ゴールドおよびシルバーのメンバー用の各報告書の最初のページに報奨クーポンを印刷するとします。この例では、前の例で定義した次の 3 つの規則を使用します。

- [先頭のフロントページのみ]
- [ゴールドレベル]
- [シルバーレベル]

まず、2 つの条件が含まれた [トップセールス] 規則を定義します。これは、いずれかの条件が満たされたときに適用します。

- ゴールドレベル = True
- シルバーレベル = True

次に、2 つの条件が含まれた [トップセールス - 表面の最初のページ] 規則を定義します。これは、すべての条件が満たされたときに適用します。

- 先頭のフロントページのみ = True
- トップセールス = True

最後に、[イメージの追加] オプションを選択します。[条件に基づいたページ/文書] をクリックし、[トップセールス - 表面の最初のページ] 規則を選択して、設定を適用します。イメージへのパスを指定します。

条件が 1 つの規則: ジョブプロパティー

無効 : 郵送しないをテストジョブの各ページに印刷するには、以下の手順に従います。

- 次のジョブプロパティーが唯一の条件として含まれる [テストジョブ] 規則を定義します。Job.TestJob = Yes
- [テキストの追加] オプションを選択します。[条件に基づいたページ/文書] をクリックし、[テストジョブ] 規則を選択して、設定を適用します。[コンテンツタイプ] として [テキスト] を選択し、その値として無効 ; 郵送しないと入力します。

動的データを使用する条件が含まれた規則

明細書の請求先住所と出荷先住所が異なっている場合に、明細書に注文は出荷先住所に送付済みと印刷するとします。

- 次の2つの文書プロパティを定義します：doc.shipping.addressとdoc.billing.address。
- 次の条件で [出荷先住所に送付済み] 規則を定義します：doc.shipping.address ≠ doc.billing.address
- [テキストの追加] オプションを選択します。[条件に基づいたページ/文書] をクリックし、[出荷先住所に送付済み] 規則を選択して、設定を適用します。[コンテンツタイプ] として [テキスト] を選択し、値に注文は出荷先住所に出荷済みと入力します。

条件付きトリガーを定義する

RICOH ProcessDirector によって PDF ファイルを処理するときに、マークアップをページに適用するかどうかを制御するために、PDF ファイル内のテキストをトリガーとして定義できます。テキストでは、メディアオプションと仕上げオプションをページに適用するかどうか、文書プロパティをページから抽出するかどうかを制御することもできます。

補足

条件付きトリガーとして使用するテキストを決定するのにプレビューモードを使用する場合、条件付きトリガーを制御ファイルに保存する必要はありません。プレビューモードの場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は一時的な制御ファイルを生成します。

条件付きトリガーを定義するには、次の手順に従います。

- PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルをロードします。
- 条件付きトリガーとして使用するテキストの左上隅の少し上の部分を左クリックします。マウスをドラッグしてテキストを囲むボックスを描画します。

補足

- テキストが存在しない領域でボックスを描画すると、条件付きトリガーは領域にテキストが存在しないときに条件が満たされたと判断します。領域にイメージまたは他のマークアップは存在するが、テキストが存在しない場合も条件が満たされたと判断されます。

- [条件付きトリガーの定義] を選択します。
- [トリガー] ボックスに、選択したテキストが含まれていることを確認します。一部が欠けている場合、[キャンセル] をクリックしてもう一度テキストを選択します。
- トリガーの [名前] を入力します。名前には、スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) を使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
- [OK] をクリックして、トリガーを作成します。

条件付きトリガーがドロップダウンリストに表示され、規則を定義するときに条件を指定するのに使用できるようになります。

[例]

ページグループごとに顧客番号を抽出するとします。PDF ファイル内の各請求書には、すべての文書の最初のページと 2 番目のページの左上付近に [アカウント] という語句があり、その語句の右側に各顧客アカウント番号が印刷されます。長い請求書には、3 番目のページにも顧客番号があります。拡張する PDF ファイルの最初の [アカウント] の周りにボックスを描画し、トリガーにacct_trgという名前を付けます。

次に、トリガー指定条件付きの規則を作成します：acct_trg = Account。

2

そして、規則を適用する文書プロパティーを定義します。

規則を管理する

[規則マネージャー] ダイアログには、規則に関する情報が表示されます。新しい規則を定義したり、既存の規則を編集または削除できます。

ダイアログには、各規則の規則名と説明が表示されます。規則は、名前のアルファベット順でリストに表示されます。

新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。

規則を変更する場合は、その規則を選択します。アイコンをクリックして規則を変更するか、アイコンをクリックしてオプションを削除します。

PDF ファイルにマークアップを追加する

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用して実動 PDF ファイルに対応する PDF ファイルにマークアップを追加します。既存のコンテンツの周囲にボックスを描画するか、ボックスを描画して新しいマークアップを追加することで、PDF ファイルをマークアップします。マークアップを追加するとき、PDF ファイルをプレビューして、特定のページのコンテンツと配置を確認できます。サンプル PDF ファイルの拡張が完了したら、変更内容を制御ファイルに保存し、RICOH ProcessDirector サーバーからアクセスできるようにして、実動 PDF ファイルに制御ファイルを適用できるようにします。

PDF ファイルにマークアップを追加する前に、PDF ファイル内の文書に対して、ページのグループ化を定義する必要があります。詳しくは、[P.27 「ページグループを定義する」](#) を参照してください。マークアップのページ配置をプレビューする際、RICOH ProcessDirector が RICOH ProcessDirector ワークフローを処理する際にマークアップに適用する配置やコンテンツが表示されない場合があります。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、ページ配置規則とマークアップコンテンツ（テキストやバーコードなど）の両方を定義するために使用するすべてのプロパティーにアクセスできない場合があります。詳しくは、[P.22 「マークアップをプレビューする」](#) を参照してください。

RICOH ProcessDirector が BuildPDFFromDocuments ステップで指定された制御ファイルで定義されたマークアップを適用するとき、RICOH ProcessDirector は指定された順序でマークアップを適用します。

- 非表示領域
- イメージ
- テキスト

- OMR マーク
- バーコード

PDF ファイルにバーコードを追加する

バーコードを PDF ファイルに追加するには、バーコードを配置する領域を選択し、バーコードタイプを指定し、コンテンツを追加します。規則を指定するかページ番号を入力して、各ページグループ内の特定のページにのみバーコードが配置されるようにすることができます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は次のバーコードタイプをサポートしています。

- 2of5 (インターリード 2 of 5)
- Code128
- Code39
- Datamatrix
- IMB (Intelligent Mail バーコード)
- QR コード (Quick Response Code)
- RM4SCC (Royal Mail 4-State Customer Code)
- RMM (Royal Mail Mailmark)

補足

- 子ジョブを作成する場合は、バーコードタイプがピリオドをサポートしていることを確認してください。子ジョブはジョブ番号にピリオドを持つ（たとえば、10000001.1）。Automated Verification ワークフローは、オープンループ再印刷用の子ジョブを作成する。Postal Enablement [GroupDocsForPostalProcess] ワークフローは、ジョブ内の文書が郵便処理にさらに使用できる場合に子ジョブを作成します。

PDF ファイル内でコンテンツからバーコードを作成できます。例えば、印刷する全郵便物のカスタマーアカウント番号を抽出している場合、アカウント番号からバーコードを作成できます。最初に、アカウント番号に対する文書プロパティを作成します。次にバーコードのコンテンツを定義するときに、この文書プロパティを選択できます。

PDF ファイル内のテキストを使用して、ページグループ内の特定のページ上のバーコード配置をトリガーする場合、まずそのテキストに対して条件付きトリガーを作成し、トリガーを条件とした規則を定義します。次にバーコードを定義するときに、この規則を選択できます。

バーコードを追加するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. 左マウスボタンを使用して、バーコードの印刷先であるボックスを描画します。バーコードとまったく同じサイズになるようにボックスを描画する必要はありません。

バーコードはボックスの大きさに合わせてサイズ変更されません。バーコードのおおよそのサイズになるようにボックスを描画すると、PDFファイルに追加するすべてのマークアップに対するバーコードの位置が表示されます。

3. [バーコードの追加] をクリックします。
4. バーコードの [名前] を入力します。名前には、スペースや特殊文字 (@、#、\$、%など) を使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
5. **オプション**：定義ウィンドウの [位置] セクションの [水平] および [垂直] 座標に新しい値を入力して、バーコードの配置を変更します。これらの座標は、ページが回転される前の、ページの左上隅とバーコードの左上隅の距離を指定します。製造装置にバーコードの位置の仕様がある場合は、これらの座標を使用して正確な位置を設定します。

 **補足**

- [幅] と [高さ] は、マークアップボックスのサイズに影響を与えますが、バーコードの位置とサイズには影響を与えません。
6. 時計回りで [回転(角度)] を選択します。バーコードの回転の基準点は左上隅です。
 7. [配置条件] セクションを使用して、バーコードを配置するページを指定します。次のいずれかの手順を実行します。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、リストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。
 - [特定のページ数] を選択して、各ページグループ内の目的のページを入力します。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 最後のページを指定する場合は、nと入力します。
 例: PDFファイルに2つのページグループがあります。最初のページグループは4ページ、2番目のページグループは7ページであるとします。この場合、3-nページを指定すると、最初のページグループの3～4ページ、2番目のページグループの3～7にマークアップが配置されます。
 8. [バーコード構成] セクションを使用して、装置属性とバーコードタイプを定義します。
 1. [バーコードタイプ] リストを使用して、次のいずれかのバーコードを選択します： [2of5]、[Code128]、[Code39]、[Datamatrix]、[IMB]、[QRコード]、[RM4SCC]、または [RMM]。
 2. **オプション**： [設定] ボタンをクリックして、バーコードの装置属性を設定します。
- 表 P.55 「バーコードの装置属性」 に、各バーコードタイプの設定を示します。

バーコードの装置属性

バーコードタイプ	属性と説明
2of5 および Code39	<p>これらのバーコードタイプの数値属性では、計測単位はミリメートルです。</p> <p>[barHeight] この属性は、各バーの垂直方向の高さを決定します。</p> <p>[checksumMode] この属性は、チェックサムの動作を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッセージにチェックサムを追加するには、[add] を入力します • バーコードのレンダリング時にチェックサムをチェックするには、[check] を入力します • チェックサム処理を無効にするには、[ignore] を入力します • デフォルトのバーコード動作を有効にするには、[auto] を入力します <p>[moduleWidth] この属性は狭いエレメントの幅です。</p> <p>[widthFactor] この属性は広いエレメントの倍数です。つまり、狭いエレメントの何倍広いかを表します。</p>
Code128	<p>このバーコードタイプの数値属性では、計測単位はミリメートルです。</p> <p>[barHeight] この属性は、各バーの垂直方向の高さを決定します。</p> <p>[checksumMode] この属性は、チェックサムの動作を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッセージにチェックサムを追加するには、[add] を入力します • バーコードのレンダリング時にチェックサムをチェックするには、[check] を入力します • チェックサム処理を無効にするには、[ignore] を入力します • デフォルトのバーコード動作を有効にするには、[auto] を入力します <p>[moduleWidth] この属性は狭いエレメントの幅です。</p>
Datamatrix	<p>このバーコードタイプの数値属性では、計測単位はミリメートルです。</p> <p>[maxSize] この属性は、X 方向と Y 方向の両方でモジュールの最大値を決定します。</p> <p>[minSize] この属性は、X 方向と Y 方向の両方でモジュールの最小値を決定します。</p> <p>[moduleWidth] この属性は、各ピクセルエレメントのサイズを決定します。</p> <p>[shape] [FORCE_SQUARE] 値は平方記号の使用を強制します。その他の値はサポートされません。</p>
IMB および RM4SCC	<p>これらのバーコードタイプの数値属性では、計測単位はミリメートルです。</p> <p>[ascenderHeight] この属性は、長いバーのアセンダーおよびディセンダーセクションの両方の高さを定義します。</p> <p>[intercharGapWidth] この属性は、各ギャップの幅を定義します。入力する値は 0.38 ~ 0.63 にする必要があります、「[moduleWidth]」値と同じにする必要があります。</p> <p>[moduleWidth] : この属性は、各バーの幅を定義しており、0.38 ~ 0.63 にする必要があります。</p> <p>[trackHeight] : この属性は、各ショートトラックまたはセンターバーの高さを定義しており、1.02 ~ 1.52 の値にする必要があります。</p>
QR コード	<p>このバーコードタイプ ([moduleWidth]) の数値属性では、計測単位はインチです。</p> <p>[encoding] この属性は、QR バーコードのエンコーディングタイプを定義します。</p>

	<p>UTF-8エンコーディングを指定するには、[Auto] を入力します Unicodeデータをその形式で出力するように指定するには、[Shift_JIS]、または[sjis] や [x-sjis] などの他のサポートされているShift JISコードポイントタイプを入力してください。</p> <p> 補足</p> <ul style="list-style-type: none"> バーコードに対する入力データは、常に Unicode 文字ポイントにする必要があります。入力データに [Shift_JIS] など Unicode 以外のコードを使用しないでください。 <p>[errorcorrection] この属性は、ダメージを受けた QR バーコードのデータを復元する機能を定義します。 コードの7%を復元できると指定するには、[L] と入力します コードの15%を復元できると指定するには、[M] と入力します コードの25%を復元できると指定するには、[Q] と入力します コードの30%を復元できると指定するには、[H] と入力します</p> <p>[moduleWidth] この属性は、各ピクセルエレメントのサイズを決定します。</p> <p>[version] この属性は変更しないでください。将来使用するために予約されています。</p>
RMM	<p>[shape] : この属性は、バーコードのタイプを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2D Type 9バーコードを指定するには、[square] と入力します 2D タイプ 29 バーコードを指定するには、[rectangle] と入力します。 <p>属性の値では、大文字と小文字は区別されません。</p>

9. [コンテンツタイプ] リストから、次のいずれかを選択します。



- RICOH ProcessDirectorは、印刷用のPDFファイルを準備する際に、バーコードコンテンツを生成するため、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatは、バーコードにとって有効なコンテンツを常に判断することはできません。例えば、一部のバーコードは、テキストまたは改行に対応できません。無効なバーコードコンテンツが含まれていると、RICOH ProcessDirector [BuildPDFFromDocuments] ステップでPDFファイルジョブが失敗することがあります。

ジョブプロパティー	バーコードに含める値があるジョブプロパティーを選択します。
文書プロパティー	バーコードに含める値がある文書プロパティーを選択します。
統計	バーコードに含める値がある統計を選択します。
テキスト	バーコードに含めるテキストを入力します。

改行	改行を強制する場合にこのコンテンツタイプを選択します。前にあるバーコードコンテンツの最終文字の後で、改行が実行されます。
Script	ソフトウェアのサポート担当者の助言があった場合にのみ、このオプションを選択します。

- 2
1. **オプション** : [コンテンツタイプ] として、文書プロパティ、ジョブプロパティ、または統計を選択した場合、プロパティまたは統計の値にテキスト変更子の規則を適用できます。アイコンをクリックして、テキストの修正ウィンドウを表示します。このウィンドウでは、必要とされる正確な値を抽出するために、変更子抽出規則を定義します。
 2. [変更するテキスト] フィールドにテキストを入力します。RICOH ProcessDirectorは、実動PDFファイル内の各ページグループを処理する際に、統計とプロパティを生成または抽出します。これらの値は RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat では使用できないため、RICOH ProcessDirector が処理する値を表すテキスト値をユーザー自身が入力する必要があります。変更子の規則は、選択したコンテンツタイプの全値に適用されるテンプレートです。例えば、カスタマーアカウント番号の最後の 8 行目のみを印刷する必要があり、文書プロパティには番号全体が格納されていると仮定します。[コンテンツタイプ] として [文書プロパティ] を選択し、[コンテンツの値] としてアカウント文書プロパティを選択します。番号の形式を統一するために、[文字の削除] テキスト変更子規則を 2 つ定義して、番号からダッシュとスペースを削除します。次に、[位置によるサブ文字列] 規則を定義して、最後の 8 行目のみを保持します。変更子の規則を作成する場合は、文書プロパティの値を知っている必要はありません。ただし、PDF ファイル内での形式は、知っている必要があります。
 3. 次の変更子のいずれかを選択します。

コンテンツ変更子

2

変更者	アクション
[文字の削除]	<p>値から削除する 1 文字またはブランク文字(ブランク文字を入力するときはスペースバーを使用します)を入力します。大文字と小文字は区別されます。次に、次のいずれかのボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [文字のすべてのインスタンスの削除] 指定の文字が値のすべての位置から削除されます。 例えば、顧客番号が324-1443255-11だとします。「-」を入力した場合、値からすべての「-」文字が削除され、324144325511となります。 • [先行文字の削除] 指定の文字が値の先頭から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭から削除されます。 • [末尾文字の削除] 指定の文字が値の末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の末尾から削除されます。 • [先行文字と末尾の文字を削除] 指定の文字が値の先頭と末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭と末尾から削除されます。
[位置によるサブ文字列]	[開始位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。テキスト値の最初の文字の位置を示すために、[最初の位置] に数値を指定します。保持する文字数を示すために、[保持する数] に数値を指定します。

変更者	アクション
[区切り文字によるサブ文字列]	<p>テキスト値が別々の文字列セグメントに分割される位置を示すために、[区切り文字] フィールドに文字またはブランク文字を入力します。文字とテキスト文字列では、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>[開始位置] ドロップダウンメニューから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。</p> <p>テキスト文字列内での区切り文字の位置を定義するために、[最初の位置] に数値を指定します。</p> <p>保持するテキスト文字列セグメントの数を定義するために、[保持する数] に数値を指定します。</p> <p>これらの例では、区切り文字を指定することによってテキストセグメントを選択する方法を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> アカウント番号 324-1443255-11 の場合、- を区切り文字として使用して、値を 3 つのテキストの 324、1443255、11 に分割できます。[行の先頭] をクリックします。2 番目と 3 番目のテキスト文字列 (1443255、11) を選択する場合、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [2] を選択します。 郵送先住所 Eldorado Springs CO 80025 の場合、ブランク文字を区切り文字として使用して値を 4 つのテキストの Eldorado、Springs、CO、80025 に分割できます。[行の末尾] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 郵便番号を選択するには、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [1] を選択します。 状態を選択するには、[最初の位置] で [2] を選択し、[保持する数] で [1] を選択します。 都市を選択するには、[最初の位置] で [3] を選択し、[保持する数] で [10] を選択します。[保持する数] で [10] を指定することによって、10 個の単語までの都市名を選択できます。
[文字を埋め込む]	<p>[パディング位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。[埋め込む文字] フィールドに埋め込み文字として特定の文字またはブランク文字を入力します。</p> <p>テキストの最小長を定義するために、[最小埋め込みテキスト長] フィールドに数値を入力します。テキスト文字列の文字数がこの最小長より短い場合、テキスト文字列の長さが最小長と等しくなるまで埋め込み文字が追加されます。</p>

10. 新しいコンテンツ定義行を追加するには、アイコンをクリックします。すべてのコンテンツタイプと変更子規則をバーコードに追加した後、特定のコンテンツタイプの横にあるチェックボックスをオンにすると、上下の矢印を使用して、コンテンツの順番を変更できます。アイコンを使用して、選択したコンテンツを削除します。
11. 複数のテキストの行を定義しており、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat でスペースのみが含まれる行を削除する場合、[空白行を削除] チェックボックスをクリックして選択します。
12. バーコード構成を作成するには、[OK] をクリックします。
13. バーコードに目的のコンテンツが含まれ、ページの配置が適切になっていることを確認するには、Ricoh → プレビューをクリックします。

14. オプション：バーコードのボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックして [編集] をクリックして、バーコードの定義を編集できます。
15. 新しいバーコード定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、Ricoh → 制御ファイルの保存をクリックします。
16. RICOH ProcessDirector [BuildPDFFromDocuments] ステップで、バーコード定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

2

PDF ファイルに OMR マークを追加する

高さ、幅、およびピッチが異なるさまざまな OMR マークを PDF ファイルに追加できます。規則を指定するかページ番号を入力して、各ページグループの特定のページ数にのみ OMR マークが配置されるようにできます。

 **補足**

- インサーターまたはその他の機械装置のブランドによっては、固有の OMR マークが必要とされる場合があります。その場合は、サプライヤーが指定する仕様を使用する必要があります。

OMR マークを追加するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループ定義を含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. 左マウスボタンを使用して、OMR マークを印刷する場所にボックスを描画します。OMR マークとまったく同じサイズになるようにボックスを描画する必要はありません。

OMR マークはボックスの大きさに合わせてサイズ変更されません。OMR マークのおおよそのサイズになるようにボックスを描画すると、PDF ファイルに追加するすべてのマークアップに対する OMR マークの位置が表示されます。

3. [OMR の追加] を選択します。
4. OMR マークの [名前] を入力します。スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) は使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
5. オプション：定義ウィンドウの位置セクションの [水平] および [垂直] 座標に新しい値を入力して、OMR マークの配置を変更します。これらの座標は、ページの左上隅と OMR マークの左上隅の距離を指定します。製造装置に OMR マークの位置の仕様がある場合は、これらの座標を使用して正確な位置を設定します。

 **補足**

[幅] と [高さ] は、マークアップボックスのサイズに影響を与えますが、OMR マークの位置とサイズには影響を与えません。

6. [配置条件] セクションを使用して、OMR マークを配置するページを指定します。次のいずれかを行ってください。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。

- 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。
 - [特定のページ数] を選択して、各ページグループ内の目的のページを入力します。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 最後のページを指定する場合は、nと入力します。
例: PDF ファイルに 2 つのページグループがあります。最初のページグループは 4 ページ、2 番目のページグループは 7 ページであるとします。この場合、3-n ページを指定すると、最初のページグループの 3 ~ 4 ページ、2 番目のページグループの 3 ~ 7 にマークアップが配置されます。
7. [物理構成] セクションを使用して、OMR コンテンツとフォームを定義します。
[OMR コンテンツ] ドロップダウンリストに必要な構成の名前が含まれている場合、リストから構成を選択します。OMR 構成ファイルは、拡張子の .omr が付けられて、デフォルトで RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat アプリケーションデータディレクトリーに保存されます。選択した構成とは異なる構成が必要な場合は、[コンテンツの管理] ボタンをクリックします。

ヒント:

- Windows の [ファイル名を指定して実行] コマンドラインに '%appdata%' と入力して [OK] をクリックすることで、現在のユーザーに対して、アプリケーションデータディレクトリーの場所を表示できます。
1. 選択した OMR 構成ファイルを変更しない場合は、[新規] または [コピー] をクリックします。
 2. [追加] および [削除] ボタンを使用して、[選択されたマーク] ボックスで OMR コンテンツを管理します。[上に移動] 、[下に移動] 、および [逆転] ボタンを使用して、マークを印刷する順序を指定します。

表 P.61 「利用可能な OMR マーク」 に、OMR 定義に追加可能なマークを示します。

利用可能な OMR マーク

OMR マーク名	説明
ブランク	OMR のピッチの値と OMR の高さの値に相当する領域を空白にします。
照合	封入する必要がある現在のページグループを示します。このマークは、通常、ページグループの最初または最後の 1 枚にのみ出力されます。
フィーダー	フィーダーステーションマークの位置を定義します。このマークは複数の場所に出力される場合があります。
ゲート	OMR セットの開始をマークするために状況により使用します。要求された場合、このマークは常に出力されます。

OMR マーク名	説明
パリティー	偶数でも奇数でも、要求されたパリティーまでバーの合計数を引き上げるために使用します。
セーフティ	OMR セットの終了をマークするために状況により使用します。要求された場合、このマークは常に出力されます。
シーケンス	1～3 本のバー、または 1～4 本のバーを使用してシーケンスを表示します。
無効	OMR のピッチの値に相当する領域を空白にします。

3. [OMR の追加] ウィンドウの [OMR 構成] セクションで、最初に計測の [単位] を選択します。各 OMR マークの高さと幅を定義するために、[高さ] および [長さ] フィールドに数値を入力します。各 OMR マーク間の距離を定義するには、[ピッチ] フィールドに数値を入力します。
4. [パリティー] セクションでは、インサーで [奇数] と [偶数] のどちらのパリティーチェックを使用するかを選択します。
5. [先頭ページ] または [最後のページのみ] の丁合いを選択します。
6. シーケンスバータイプを選択した場合は、[シーケンス範囲] セクションを使用して、[1～7] (3 本のバー) または [1～15] (4 本のバー) を指定します。
7. シーケンスバータイプを選択した場合、[シーケンス] セクションを使用して、シーケンスバーのビット順を定義します。1、2、4 の順序 (3 本のバー) または 1、2、4、8 の順序 (4 本のバー) でバーを印刷する場合は [昇順] を選択します。4、2、1 の順序または 8、4、2、1 の順序でバーを印刷する場合は [降順] を選択します。

シーケンスが [昇順] の場合、1 番目の位置にあるバーは 1、2 番目の位置にあるバーは 2、1 番目と 2 番目の位置にあるバーは 3、4 番目の位置にあるバーは 4 を表し、1 番目と 4 番目の位置にあるバーは 5 を表し、以下同様に続きます。

8. OMR コンテンツと構造の定義を定義したら、[保存] をクリックし、次に [キャンセル] をクリックして、メインの OMR 構成ウィンドウに戻ります。
9. [挿入データ] フィールドを使用して、ジョブ全体に対して挿入データの固定セットを選択します。ジョブ内の全文書にフル (取得) する挿入データをインサーに指示するために、[0] または [1] を入力します。例えば、6 台のステーションインサーがあり、1～6 までの番号がステーションに付いていて、ステーション 2 と 4 から挿入データを追加する場合は、[挿入データ] フィールドに [010100] と入力します。
10. オプション：OMR のボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックし [編集] を選択して、OMR の定義を編集できます。
11. 新しい OMR マーク定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、Ricoh → 制御ファイルの保存をクリックします。

ヒント：

- OMR 構成を保存するとき、OMR 定義は、アプリケーションデータディレクトリー内の InfoPrint ディレクトリーにある OMR 構成ファイルに保存されます。PDF ファイルをマークアップして OMR マークを追加し、制御ファイルを保存するときにも、OMR 構成は制御ファイルに保存されます。この制御ファイル

を BuildPDFFromDocuments ステップに指定します。RICOH ProcessDirector がアクセスできるディレクトリーに OMR 構成ファイルを移動する必要はありませんが、構成を他のユーザーと共有する場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が使用する別のコンピューターに OMR 構成ファイルを移動できます。

12. RICOH ProcessDirector BuildPDFFromDocuments ステップで、OMR マーク定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

2

PDF ファイルにイメージを追加する

ロゴや広告などの JPEG イメージを PDF ファイルに追加できます。規則を指定したり、ページ番号を入力したりすることで、各ページグループ内の特定のページへのイメージの配置を制限できます。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、RGB 形式の JPEG ファイルのみ処理できます。CMYK 形式はサポートしていません。

イメージを追加するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループを含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. 左マウスボタンを使用して、イメージを印刷する場所にボックスを描画します。また非表示領域のマークアップボックスの上にイメージを配置することもできます。

 **補足**

イメージはボックスの大きさに合わせてサイズ変更されません。イメージのおおよそのサイズになるようにボックスを描画すると、PDF ファイルに追加するすべてのマークアップに対するイメージの位置が表示されます。

3. [イメージの追加] をクリックします。
4. 定義ウィンドウの [位置] セクションの [水平] および [垂直] 座標に新しい値を入力して、イメージの配置を変更します。これらの座標は、ページの左上隅とイメージの左上隅の距離を指定します。

 **補足**

[幅] と [高さ] は、マークアップボックスのサイズに影響を与えますが、イメージの位置とサイズには影響を与えません。

5. イメージの [名前] を入力します。スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) は使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
6. [配置条件] セクションを使用して、イメージを配置するページを指定します。次のいずれかを行ってください。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、 アイコンをクリックします。詳しくは、P 48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、 アイコンをクリックします。

- [特定のページ数] を選択して、各ページグループ内の目的のページを入力します。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区ります。
 - 最後のページを指定する場合は、nと入力します。

例: PDF ファイルに 2 つのページグループがあります。最初のページグループは 4 ページ、2 番目のページグループは 7 ページであるとします。この場合、3-n ページを指定すると、最初のページグループの 3 ~ 4 ページ、2 番目のページグループの 3 ~ 7 にマークアップが配置されます。

7. 定義しているイメージがアクセスできるファイルパスに存在している場合、[参照] を選択して、PDF ファイルに追加する JPEG イメージファイルをクリックし、[開く] をクリックします。このイメージ定義を制御ファイルに保存すると、イメージファイルが制御ファイルに組み込まれます。RICOH ProcessDirector サーバーがアクセスできるディレクトリーにイメージをコピーする必要はありません。
制御ファイルにイメージファイルを埋め込む代わりに、BuildPDFFromDocuments ステップが PDF ファイルを処理するときに、RICOH ProcessDirector がアクセスできるイメージファイルの名前と場所を入力できます。イメージファイルの名前と場所を指定して、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が見つけられなかった場合、イメージが見つからなかったと通知する確認メッセージが表示されます。RICOH ProcessDirector サーバーに対してそのイメージファイルの名前とパスをそのまま使用する場合は、[はい]、使用しない場合は [いいえ] を選択します。
RICOH ProcessDirector がアクセスできるディレクトリーの場所を指定するには、完全なディレクトリパスとファイル名(例: [/aiw/aiw1/images/myimage.jpg])を入力します。PDF ファイルを処理するときに、RICOH ProcessDirector がイメージファイルを見つからない場合、ジョブは BuildPDFFromDocuments ステップで失敗します。
8. [OK] をクリックして、イメージの構成を作成します。
9. オプション: **Ricoh** → プレビューをクリックして、イメージが意図したページ配置になっていることを確認してください。
10. オプション: イメージボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックして [編集] を選択することで、イメージの定義を編集できます。
11. 新しいイメージ定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。
12. RICOH ProcessDirector BuildPDFFromDocuments ステップで、イメージ定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

PDF ファイルで領域を非表示にする

RICOH ProcessDirector で実動 PDF ファイルを処理する際に、カバーブロックを定義して PDF ファイルの特定の領域を非表示にして、ページの特定の領域が表示または印刷されない

いようにできます。規則を指定するかページ番号を入力して、各ページグループ内の特定のページ数にのみ非表示領域が配置されるようにすることができます。

通常、PDF ファイルでは、不要になったイメージ、テキスト、バーコード、またはその他のタイプの光学式マークを含む領域を非表示にします。例えば、既存の光学式マークを、さらに小さい Datamatrix バーコードに置き換える場合、古いマークを非表示にするために、そのマークを含む領域を覆うようにボックスを描画します。非表示領域の上に新しい Datamatrix バーコードを配置します。RICOH ProcessDirector で非表示領域がある PDF ファイルを処理する場合、この非表示領域には何もインクが印刷されません。したがって、非表示領域は、印刷メディアと同じ色になります。RICOH ProcessDirector がマークアップを PDF ファイルに適用する場合、BuildPDFFromDocuments ステップは、他のマークアップを適用する前にすべての非表示領域を適用します。

領域を非表示にするには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループを含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. 左マウスボタンを使用して、PDF ファイル上で、非表示にする領域を囲むボックスを描画します。
3. [領域の非表示] をクリックします。
4. オプション：定義ウィンドウの位置セクションを使用して、非表示領域の位置とサイズを変更します。[水平] および [垂直] 座標は、ページの左上隅と非表示領域の左上隅の距離を指定します。[幅] と [高さ] は、非表示領域のサイズを指定します。
5. 非表示領域の [名前] を入力します。スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) は使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
6. [配置条件] セクションを使用して、非表示領域を配置するページを指定します。次のいずれかを行ってください。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、 アイコンをクリックします。詳しくは、P. 48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、 アイコンをクリックします。
 - [特定のページ数] を選択して、各ページグループ内の目的のページを入力します。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 最後のページを指定する場合は、n と入力します。
 例: PDF ファイルに 2 つのページグループがあります。最初のページグループは 4 ページ、2 番目のページグループは 7 ページであるとします。この場合、3-n ページを指定すると、最初のページグループの 3 ~ 4 ページ、2 番目のページグループの 3 ~ 7 にマークアップが配置されます。
7. [OK] をクリックして、非表示領域の定義を作成します。

8. **Ricoh** → プレビューをクリックして、非表示領域がページ上で意図した配置になっていることを確認します。
9. オプション：非表示領域のボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックし [編集] を選択して、非表示領域の定義を編集できます。
10. 新しい非表示領域定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。
11. RICOH ProcessDirector BuildPDFFromDocuments ステップで、非表示領域定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

2

PDF ファイルにテキストを追加する

固定のテキストまたは可変のテキストを PDF ファイルに追加できます。1 つのテキストボックスで固定のテキストと可変のテキストを組み合わせることもできます。固定のテキストは入力するテキストです。可変のテキストは、文書プロパティー、ジョブプロパティー、または統計のデータです。

テキストを追加するには、次の手順に従います。

1. PDF ファイルを Adobe Acrobat Professional で開いて、ページグループを含む制御ファイルを読み込むか、ページグループを定義します。
2. 左マウスボタンを使用して、テキストを追加する領域にボックスを描画します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、テキストボックスの左上隅を基準にテキストを配置します。指定したすべてのテキストは、テキストがボックスに収まらない場合でも、指定したサイズで印刷されます。
3. [テキストの追加] をクリックします。
4. オプション：定義ウィンドウの位置セクションの [水平] 座標および [垂直] 座標に新しい値を入力して、テキストの配置を変更します。これらの座標は、ページの左上隅とテキストボックスの左上隅の距離を指定します。

 **補足**

[幅] と [高さ] は、マークアップボックスのサイズに影響を与えますが、テキストの位置とサイズには影響を与えません。

5. テキストボックスの [名前] を入力します。名前には、スペースや特殊文字 (@、#、\$、% など) を使用しないでください。ピリオドとアンダースコアは使用できます。
6. [囲まれたテキストに整列] ドロップダウンリストから値を選択します。
 - 追加するテキストを、描画したボックスで囲まれた既存のテキストが最初に現れる箇所に位置合わせする場合は、[最初の出現] を選択します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、追加するテキストを毎回同じ箇所に位置合わせします。
 - 追加するテキストを、描画したボックスで囲まれた既存の各テキストに位置合わせする場合は、[出現ごと] を選択します。
 - テキストを位置合わせしない場合は、デフォルト値の [使用不可] を使用します。

新しいテキストを囲まれたテキストに位置合わせする方法は、既存のテキストを置き換える方法としては最も正確です。

 **補足**

- [囲まれたテキストに整列] 機能は、新しいテキストと既存のテキストに同じフォントが使用されている場合に最も効果を発揮します。フォントが異なる場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat によって、フォントのベースラインが位置合わせされます。
 - RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は常に、新しいテキストの最初の行と既存のテキストの最初の行を位置合わせします。
 - 囲まれたテキストが左揃えになっていない場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、新しいテキストを既存のテキストの一番左の行に位置合わせします。
7. 時計回りで [回転 (角度)] を選択します。テキストボックスの回転の基準点は左上隅です。
 8. [配置条件] セクションを使用して、テキストを配置するページを指定します。次のいずれかを行ってください。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、ドロップダウンリストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。
 - [特定のページ数] を選択して、各ページグループ内の目的のページを入力します。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 最後のページを指定する場合は、nと入力します。
例: PDF ファイルに 2 つのページグループがあります。最初のページグループは 4 ページ、2 番目のページグループは 7 ページであるとします。この場合、3-n ページを指定すると、最初のページグループの 3 ~ 4 ページ、2 番目のページグループの 3 ~ 7 にマークアップが配置されます。
 9. [フォント] セクションを使用して、フォント、サイズ、および色を選択します。フォントのドロップダウンリストには、PDF ファイルに埋め込むことが許可されていないフォントを除く、Adobe Acrobat で利用可能なすべてのフォントが含まれます。

 **補足**

- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat がファイルを使用できるようにするには、フォントを Windows [Fonts] フォルダーにインストールします。
- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、リガチャ、スワッシュ、および単語内での位置によって変化する字形などの代替字形をサポートしていません。ヘブライ語やアラビア語などの右横書き言語は正しくレンダリングされません。ただし、フォントのドロップダウンリストには、Windows [Fonts] フォルダーにインストールされているすべてのフォントが表示されます。これには、右横書き言語のフォントおよびサポートされていない代替字形のフォントも含まれます。
- フォントを制御ファイルに追加した場合、制御ファイルを使用して PDF 文書を処理するすべてのマシンにフォントがライセンスされていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

10. 次の手順に従って、追加するテキストのコンテンツを定義します。

- ドロップダウンリストから最初の [コンテンツタイプ] を選択します。必要に応じて次のタイプをいくつでも選択して、テキストコンテンツを定義できます:

テキストマークアップコンテンツタイプ

コンテンツタイプ	説明
テキスト	印刷するテキストを入力します。
文書プロパティー	印刷する値がある文書プロパティーを選択します。
ジョブプロパティー	印刷する値があるジョブプロパティーを選択します。
改行	改行を強制するコンテンツタイプを選択します。前にあるテキストコンテンツの最終文字の後で、改行が実行されます。
統計	印刷する値がある統計を選択します。
スクリプト	ソフトウェアのサポート担当者の助言があった場合にのみ、このオプションを選択します。

- [コンテンツの値] を選択します。ドロップダウンリストには、選択した [コンテンツタイプ] で利用可能な値が含まれています。
- オプション：文書プロパティー、ジョブプロパティー、またはジョブ統計 [コンテンツタイプ] の各値にテキスト変更子規則を適用できます。アイコンをクリックして、必要な厳密値を抽出するためにテキスト変更子規則を定義します。
- [変更するテキスト] フィールドにテキストを入力します。RICOH ProcessDirectorは、PDFファイル内の各ページグループを処理する際に、統計とプロパティーを生成または抽出します。これらの値は RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat では使用できないため、RICOH ProcessDirector が処理する値に対応するテキスト値をユーザー自身が入力する必要があります。変更子の規則は、選択したコンテンツタイプの全値に適用されるテンプレートです。例えば、クレジットカード番号の最後の 4 衔目のみを印刷する必要があり、文書プロパティーには番号全体が格納されていると仮定します。[コンテンツタイプ]

として [文書プロパティー] を選択し、[コンテンツの値] としてクレジットカード文書プロパティーを選択します。番号の形式を統一するために、[文字の削除] テキスト変更子規則を 2 つ定義して、番号からダッシュとスペースを削除します。次に [位置によるサブ文字列] 規則を定義して、最後の 4 行目のみを保持します。変更子の規則を作成する場合、文書プロパティーの値を知っている必要はなく、むしろ、PDF ファイル内の形式を知っている必要があります。

5. 次の変更子のいずれかを選択します。

コンテンツ変更子

2

変更者	アクション
[文字の削除]	<p>値から削除する 1 文字またはブランク文字 (ブランク文字を入力するときはスペースバーを使用します) を入力します。大文字と小文字は区別されます。次に、次のいずれかのボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [文字のすべてのインスタンスの削除] 指定の文字が値のすべての位置から削除されます。 例えば、顧客番号が 324-1443255-11 だとします。「-」を入力した場合、値からすべての「-」文字が削除され、324144325511 となります。 • [先行文字の削除] 指定の文字が値の先頭から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭から削除されます。 • [末尾文字の削除] 指定の文字が値の末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の末尾から削除されます。 • [先行文字と末尾の文字を削除] 指定の文字が値の先頭と末尾から削除されます。例えば、ブランク文字を入力した場合、すべてのブランク文字が値の先頭と末尾から削除されます。
[位置によるサブ文字列]	[開始位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。テキスト値の最初の文字の位置を示すために、[最初の位置] に数値を指定します。保持する文字数を示すために、[保持する数] に数値を指定します。

変更者	アクション
[区切り文字によるサブ文字列]	<p>テキスト値が別々の文字列セグメントに分割される位置を示すために、[区切り文字] フィールドに文字またはブランク文字を入力します。文字とテキスト文字列では、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>[開始位置] ドロップダウンメニューから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。</p> <p>テキスト文字列内での区切り文字の位置を定義するために、[最初の位置] に数値を指定します。</p> <p>保持するテキスト文字列セグメントの数を定義するために、[保持する数] に数値を指定します。</p> <p>これらの例では、区切り文字を指定することによってテキストセグメントを選択する方法を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> アカウント番号 324-1443255-11 の場合、- を区切り文字として使用して、値を 3 つのテキストの 324、1443255、11 に分割できます。[行の先頭] をクリックします。2 番目と 3 番目のテキスト文字列 (1443255、11) を選択する場合、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [2] を選択します。 郵送先住所 Eldorado Springs CO 80025 の場合、ブランク文字を区切り文字として使用して値を 4 つのテキストの Eldorado、Springs、CO、80025 に分割できます。[行の末尾] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 郵便番号を選択するには、[最初の位置] と [保持する数] の両方で [1] を選択します。 状態を選択するには、[最初の位置] で [2] を選択し、[保持する数] で [1] を選択します。 都市を選択するには、[最初の位置] で [3] を選択し、[保持する数] で [10] を選択します。[保持する数] で [10] を指定することによって、10 個の単語までの都市名を選択できます。
[文字を埋め込む]	<p>[パディング位置] リストから [行の先頭] または [行の末尾] を選択します。[埋め込む文字] フィールドに埋め込み文字として特定の文字またはブランク文字を入力します。</p> <p>テキストの最小長を定義するために、[最小埋め込みテキスト長] フィールドに数値を入力します。テキスト文字列の文字数がこの最小長より短い場合、テキスト文字列の長さが最小長と等しくなるまで埋め込み文字が追加されます。</p>

- [+] をクリックして、新しいコンテンツ定義行を追加します。PDF ファイルに追加するテキストに、すべてのコンテンツタイプと変更子規則を追加した後、特定のコンテンツタイプの横にあるチェックボックスをオンにすると、上下のアイコンを使用して、コンテンツの順番を変更できます。[] アイコンを使用して、選択したコンテンツを削除します。
- 複数のテキストの行を定義しており、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat でスペースのみが含まれる行を削除する場合、[空白行を削除] チェックボックスをクリックして選択します。
- [OK] をクリックして、テキストの構成を保存します。
- Ricoh → プレビューをクリックして、テキストに目的のコンテンツが含まれ、ページの配置が適切になっていることを確認します。

15. オプション：ボックスをダブルクリックするか、ボックスを右クリックして【編集】を選択することで、テキスト定義を編集できます。
16. 新しいテキスト定義を含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、Ricoh → 制御ファイルの保存をクリックします。
17. 制御ファイルを、RICOH ProcessDirector がアクセスすることが可能なディレクトリーの場所に移動します。
18. RICOH ProcessDirector BuildPDFFromDocuments ステップで、テキスト定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

2

ページ挿入を操作する

【Insert Manager】ダイアログには、他の PDF ファイルからのページ挿入に関する情報が表示されます。ページ挿入を追加、編集、および削除できます。

【BuildPDFFromDocuments】ステップの実行時に RICOH ProcessDirector がジョブの文書に挿入を追加する順序を設定できます。

【Insert Manager】ダイアログには、それぞれのページ挿入に関する次のような情報が表示されます。

- 【PDFファイル】列には、RICOH ProcessDirector 1 次サーバー上の PDF ファイルへのディレクトリーパスが表示されます。
- 【挿入場所】列には、ページが挿入される場所が文書のページの前か後かが表示されます。
- 【ページ】列には、それぞれの PDF ファイルのどのページが挿入されるかが表示されます。
- 【規則】列には、【BuildPDFFromDocuments】ステップの実行時に挿入を受信するジョブ内の文書を判別するために、RICOH ProcessDirector が使用する規則の名前が表示されます。
- 【面数】列には、挿入が片面、両面、反転のどれなのか、または設定がジョブから継承されるのかどうかが表示されます。

ページ挿入を追加するには、アイコンをクリックします。

ページ挿入を操作する場合は、そのページ挿入を選択します。アイコンをクリックしてページ挿入を変更したり、アイコンをクリックして削除したりします。

RICOH ProcessDirector は、【Insert Manager】リストに上から下に表示される順番で挿入物をジョブ内の文書に追加します。

文書に挿入を追加する順序を逆にするには、挿入を選択します。アイコン、またはアイコンをクリックして、リスト内の挿入物を上下に移動できます。

他の PDF ファイルからページを挿入する

PDF ファイルでは、他の PDF ファイルからのページを配置条件と一致する各文書の前、配置条件と一致する各文書の後、または両方の場所に挿入できます。挿入されたページによって各文書のページ数が増加します。また、そこにもマークアップを適用できます。

他の PDF ファイルからページを挿入するには、次の手順に従います。

1. Open a PDF file in Adobe Acrobat Professional and either load a control file that contains page groups or define page groups.
2. **Ricoh** → 挿入データの管理をクリックします。
3. アイコンをクリックします。
4. 挿入するページが含まれた最初の PDF ファイルを指定します。
 - そのファイルにアクセスできる場合は、[挿入するファイル] セクションで [参照] をクリックします。目的のファイルに移動します。そのファイルを選択して、[開く] をクリックします。
 - そのファイルにアクセスできない場合は、RICOH ProcessDirector 1 次サーバーのそのファイルへの完全なディレクトリパスを入力します。
例えば、UNIX ベースのシステムでは、/aiw/aiw1/insertpages/insert1.pdf、または Windows では C:\aiw\aiw1\insertpages\insert1.pdf を入力します。

[BuildPDFFromDocuments] ステップの実行時に RICOH ProcessDirector がそのファイルにアクセスできることを確認します。
5. ファイルのすべてのページを挿入する場合は、[すべてのページ] ラジオボタンをクリックします。
挿入するページを指定するには、[特定のページ] ラジオボタンをクリックして、選択したページを入力します。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 最後のページを指定する場合は、nと入力します。
例えば、8 ページから挿入ファイルの終わりまで挿入するには、8-n,5,2 を入力して、ページ 5 とページ 2 が続きます。
6. [挿入場所] セクションで、指定された配置条件と一致する文書の前に挿入するか後に挿入するかを選択します。
7. [配置条件] セクションで、挿入したページを受け取る文書を指定します。
 - 開いている PDF ファイルのそれぞれの文書の前または後にページを挿入するには、[すべての文書] ラジオボタンをクリックします。
 - 一部の文書の前または後にのみ挿入して他の文書には挿入しない場合は、[規則に基づく文書] ラジオボタンをクリックします。
リストから、配置条件を定義する規則を選択します。
または次のアクションを実行できます。
 - 新しい規則を定義するには、アイコンをクリックします。 詳しくは、P.48 「規則を定義する」 を参照してください。
 - 規則マネジャーに移動するには、アイコンをクリックします。

 **重要**

- ページ挿入のカスタム規則には、ジョブプロパティー、文書プロパティー、および文書の統計 ([Stat.TotalPagesInDocument] や [Stat.TotalSheetsInDocument] など) の値に基づいた条件があります。
- 条件トリガーまたはページ統計 ([Stat.CurrentPageInJob] や [Stat.CurrentSheetInJob] など) の値に基づいた条件は、ページ挿入のカスタム規則では動作しません。RICOH ProcessDirectorは、文書の個別のページの情報を評価する前に、ページ挿入の規則が文書に適用されるかどうかを評価します。
- 定義済みの規則([すべての表面ページ] や [最後のバックページのみ])は、すべての文書にページを挿入するか、またはどの文書にも挿入しないかです。そのような規則では特定の文書に限定してページ挿入を行うことがないため、ページ挿入には使用しないでください。

8. [Sides] セクションで、挿入を片面印刷するか両面印刷するかを指定します。

Simplex

挿入は用紙の方面に印刷されます。

Duplex

挿入は用紙の両面に印刷され、用紙の長辺にとじ位置があります。

Tumble

挿入は用紙の両面に印刷され、用紙の短辺にとじ位置があります。シートの表面の下部が、シートの裏面の上部になります。

From print job

挿入は印刷ジョブで指定されている面に印刷されます。

9. [OK] をクリックします。
10. 他の PDF ファイルを選択してページの挿入方法を指定するには、 アイコンをクリックします。最初の PDF ファイルに対して実行したステップを繰り返します。

RICOH ProcessDirector が PDF ファイルのページを挿入するときは、それらのファイルが [Inserts Manager] リストに表示されている順序(上から下に)で挿入します。

例えば、[Inserts Manager] のリストに 4 つの行があるとします。それぞれの PDF ファイルからは、次のように挿入するように指定されています。

- 最初の PDF ファイルのページ 1 が、開いている PDF ファイルのそれぞれの文書の前に挿入される。
- 2 番目の PDF ファイルのページ 4-6 が、それぞれの文書の前に挿入される。
- 3 番目の PDF ファイルのページ 2-4 が、それぞれの文書の後に挿入される。
- 4 番目の PDF ファイルのページ 3 が、それぞれの文書の後に挿入される。

開いている PDF ファイルの最初の文書は、6 ページです。RICOH ProcessDirector が挿入を追加すると、最初の文書は 14 ページで、次のような順序になります。

- 最初の PDF ファイルのページ 1
- 2 番目の PDF ファイルのページ 4-6

- 元の文書のページ 1-6
- 3 番目の PDF ファイルのページ 2-4
- 4 番目の PDF ファイルのページ 3

11. 文書にページを挿入するために RICOH ProcessDirector が使用する順序を変更するには、[Inserts Manager] リストの行を選択します。リストの行を上または下に移動するには、▲アイコン、または▼アイコンをクリックします。
12. リストにすべての PDF ファイルを追加したら、[OK] をクリックします。
13. 意図したとおりにページが挿入されていることを確認するには、Ricoh → プレビューをクリックします。

挿入するページが含まれた PDF ファイルをプレビューすると、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat では、その PDF ファイルが [Inserts Manager] リストで指定したディレクトリパスにあるかどうかが確認されます。

- ある場合には、そのディレクトリパスにある PDF ファイルからページが挿入されます。
- ない場合には、制御ファイルに組み込まれている PDF ページからページが挿入されます。

If RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が組み込まれた PDF ファイルを検出できない場合には、プレビュー機能が警告メッセージを表示し、ページを挿入せずに続行します。

14. 新しい挿入ページを含む、すべての拡張を開いている PDF ファイルに保存する準備が整ったら、Ricoh → 制御ファイルの保存をクリックします。

制御ファイルには、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat はアクセス可能な PDF ファイルを組み込みます。

PDF ファイルが組み込まれている場合は、RICOH ProcessDirector サーバーからアクセスできるディレクトリーにそのファイルをコピーする必要はありません。

制御ファイルを保存するたびに、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は組み込まれたそれぞれの PDF ファイルを [Inserts Manager] リストで指定されたディレクトリパスのファイルで置換しようとします。

15. RICOH ProcessDirector [BuildPDFFromDocuments] ステップで、挿入ページを含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

他の PDF ファイルからの挿入を含むジョブが [BuildPDFFromDocuments] ステップに入ると、RICOH ProcessDirector は、すべての PDF ファイルが指定されたディレクトリパスにあるかどうかを確認します。

- ある場合には、そのディレクトリパスにある PDF ファイルからページが挿入されます。
- ない場合には、制御ファイルに組み込まれている PDF ページからページが挿入されます。

RICOH ProcessDirector が組み込まれた PDF ファイルを検出できない場合には、ジョブはエラー状態になります。RICOH ProcessDirector が挿入するページを含むすべての PDF ファイルにアクセスするか、制御ファイルからページ挿入の指示を削除するまで、ジョブは [BuildPDFFromDocuments] ステップを完了できません。

例

PDF ファイルのそれぞれの文書のページ数は、1 ページから 3 ページです。文書が 2 ページの場合、その最後にページ A を挿入します。文書が 1 ページの場合、その最後にページ A とページ B を挿入します。

1. 次の 1 つの条件を持つ規則 TotalPagesLessThan3 を定義します。

Stat.TotalPagesInDocument < 3

2. ページ A のページ挿入と、ページ B のページ挿入を別々に定義します。

3. それぞれのページ挿入で、次の操作を実行します。

- [文書後] ラジオボタンをクリックします。
- [規則に基づいた文書数] ラジオボタンをクリックして、TotalPagesLessThan3 を選択します。

4. [Insert Manager] リストで、ページ A の挿入がページ B の挿入より上にあることを確認します。

文書が 1 ページまたは 2 ページの場合、RICOH ProcessDirector はページ A を追加します。それで文書が 2 ページになった場合、RICOH ProcessDirector はページ A の後にページ B を追加します。

メディアと仕上げ

サンプル PDF ファイルのメディアと仕上げのオプションを指定して、RICOH ProcessDirector ジョブに指定したジョブレベルのメディアと仕上げのオプションに対するページ例外として適用できます。

メディアと仕上げのオプションを PDF ファイル内の一連のページまたは文書 (ページグループ) に適用できます。メディアと仕上げのオプションを文書に適用する場合は、定義済みの規則またはカスタム規則を使用できます。例えば、定義済みの規則を使用して、各文書の最初のページを青い用紙に印刷できます。また、カスタム規則を定義して、右上隅に [プレミアメンバー] という語句が含まれた各ページをコールドの用紙に印刷することもできます。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat で指定するメディアと仕上げのオプションは、ジョブ用に RICOH ProcessDirector が指定するオプションよりも優先されます。

補足

- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、RICOH ProcessDirector 電子フォームが含まれるメディアをサポートします。[Show electronic forms] 設定によって、ファイルが使用するメディア用に定義された電子フォームとデータが結合されたときのサンプルファイルの外観を、プレビューに表示するかどうかが決定します。

メディアと仕上げのオプションを追加する際に PDF ファイルをプレビューして、それらが目的のページに適用されたことを確認できます。

メディアおよび仕上げの定義は RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat 制御ファイルに保存されています。RICOH ProcessDirector はこの制御ファイルを使用して、定義を印刷ジョブに自動で適用します。

メディアと仕上げのオプションを管理する

[メディアと仕上げ] ダイアログには、PDFファイルのメディアと仕上げのオプションに関する情報が表示されます。オプションを編集、削除したり、新しいメディアと仕上げのオプションを選択したり、RICOH ProcessDirectorがPDFファイルにオプションを適用する順序を設定したりできます。

2

それぞれのページレベルのメディアと仕上げのオプションでは、[範囲] 列に、選択されたページ、またはRICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat がPDFファイル内の文書にオプションを適用するのに使用する規則名が表示されます。[代替用紙] 列にはメディアのオプションが表示され、[サブセット仕上げ] 列には仕上げのオプションが表示されます。

新しいページレベルのメディアまたは仕上げオプションを指定するには  アイコンをクリックします。

ページレベルのメディアまたは仕上げのオプションを操作するには、それを選択します。 アイコンをクリックしてオプションを変更するか、 アイコンをクリックしてオプションを削除します。

ページレベルのメディアと仕上げのオプションが PDF ファイルに適用される順序を変更するには、オプションを選択します。次に、上矢印または下矢印をクリックして移動します。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、リストに表示される順序(上から下)でページレベルのオプションを PDF ファイルに適用します。2つのページレベルのオプションが同じページに対して矛盾した選択を指定している場合(例えば、2つの別のタイプのメディア)、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat はリストの下のほうにあるオプションを適用します。

例えば、最初のオプションでは PDF ファイルの各文書の最初のページのメディアに [レター、ブルー] メディアが指定されていて、2番目のオプションでは、Gold Club メンバー向けの各文書の最初のページに [レター、ゴールド] メディアが指定されているとします。この場合に PDF ファイルを印刷すると、Gold Club メンバー向けのすべての文書の最初のページは [レター、ゴールド] メディアに印刷されます。その他のすべての文書の最初のページは [レター、ブルー] メディアに印刷されます。[レター、ブルー] メディアのオプションが [レター、ゴールド] メディアのオプションよりも下に表示されている場合は、すべての文書の最初のページが [レター、ブルー] メディアに印刷され、最初のページが [レター、ゴールド] メディアに印刷されることはありません。

 補足

メディアオプションの順序は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat が仕上げオプションを適用する方法に影響を与えません。また、仕上げオプションの適用方法がメディアオプションの順序に影響を与えることもありません。

メディアと仕上げのオプションを選択する

規則を指定するかページ番号を入力して、各ページグループの特定のページのメディアと仕上げのオプションを選択できます。例えば、各ページグループの 1 ~ 4 ページがステー

フルされるように指定できます。また、各ページグループの最初のページがコールドのページに印刷されるように指定することもできます。

メディアと仕上げのオプションを選択するには、次の手順に従います。

1. **Ricoh** → メディアと仕上げ、アイコンの順にクリックします。
2. [代替用紙] リストで用紙オプションを選択するか、[サブセット仕上げ] リストでステープルオプションを選択します。

 **補足**

- メディアオプションは、media.zipファイル（またはRICOH ProcessDirectorの古いバージョンのmedia.xmlファイル）で指定されたRICOH ProcessDirectorメディアオブジェクトの名前です。詳しくは、ヘルプシステムへのメディアオブジェクトの読み込みに関するトピック、または「RICOH ProcessDirector: 文書処理機能をインストールする」を参照してください。
 3. [配置条件] セクションを使用して、メディアまたはフィニッシングオプションを配置するページを指定します。次のいずれかの手順を実行します。
 - [規則に基づいたページ数] を選択して、リストから規則を選択します。デフォルトの規則は [すべてのページ] です。次のことを行うこともできます。
 - アイコンをクリックして新しい規則を定義します。詳しくは、P. 48 「規則を定義する」を参照してください。
 - アイコンをクリックして規則マネージャーに移動します。
 - [特定のページ数] を選択して、目的のページを入力します。メディアと仕上げのオプションは、各ページグループ内のこれらのページに適用されます。次のことが可能です。
 - ページ範囲を指定する場合は、ハイフンを使用して最初のページと最後のページを区切ります。
 - 個別のページを指定する場合は、コンマで区切ります。
 - 各ページグループ内の最後のページを指定する場合は、nと入力します。例えば、PDFファイルに2つのページグループがあり、最初のページグループは4ページ、2番目のページグループは7ページであるとします。この場合、3-nページを指定すると、最初のページグループの3～4ページ、2番目のページグループの3～7にマークアップが配置されます。
 4. [OK] をクリックします。
指定したオプションが、メディアと仕上げのリストに表示されます。
 5. 代替用紙またはサブセット仕上げのオプションが複数ある場合は、新しいオプションを選択します。上下の矢印を使用して、選択したオプションを順序リストの適切な位置に移動します。
- RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、リストに表示される順序（上から下）でページレベルのオプションをPDFファイルに適用します。2つのページレベルのオプションが同じページに対して矛盾した選択を指定している場合（例えば、2つの別のタイプのメディア）、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat はリストの下のほうにあるオプションを適用します。
6. RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat がメディアと仕上げのオプションを目的のページに適用したかどうかを確認するには、次の手順に従います。

1. **Ricoh** → プレビューをクリックします。
ページにメディアと仕上げのオプションがある場合は、右上隅に [印刷操作] という注釈が表示されます。
2. メディア名および仕上げオプションを表示するには、[印刷操作] のうえにマウスポインターを置きます。

例:

[メディア] = [青、レター] [ステープル] = [左上] (#1)

(#1) は、仕上げオプションでのページのシーケンスを示します。5～8ページのステープルを指定した場合、5ページは #1 で 8 ページは #4 です。

または、Adobe Acrobat ツールバーの [注釈] をクリックします。[注釈] ペインに、各ページの注釈とメディアと仕上げのオプションが表示されます。

 **補足**

- [Show electronic forms] 設定によって、ファイルが使用するメディア用に定義された電子フォームとデータが結合されたときのサンプルファイルの外観を、プレビューに表示するかどうかが決定します。[Yes] に設定すると、フォームと結合されたデータが表示されます。
7. 新しいメディアと仕上げのオプションを含む、すべての拡張を PDF ファイルに保存する準備が整ったら、**Ricoh** → 制御ファイルの保存をクリックします。
 8. RICOH ProcessDirector BuildPDFFromDocuments ステップで、メディアおよび仕上げ定義を含む制御ファイルの名前と場所を指定します。

3. トラブルシューティング

- ・プラグインのバージョンを確認する
- ・ページグループが正しく表示されない
- ・プレビューでマークアップが正しいページに表示されない
- ・テキストを選択するとテキストではなく小さいボックスが表示される
- ・フォント、イメージ、またはその他のリソースが表示されない
- ・RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobatカットオフ値のフィールド
- ・文書プロパティーが表示されない
- ・メディアオプションが表示されない
- ・PDFファイルにテキストを追加したときに、リストにフォントが表示されない
- ・代替字形のフォントが正しく表示されない
- ・QRバーコードに日本語データが印刷されない
- ・メモリー設定の確認を求めるエラーメッセージが表示される

3

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat の操作中に問題が生じた場合は、次のトピックを参照すると、問題の解決に役立つ場合があります。

プラグインのバージョンを確認する

[バージョン情報] には、現在インストールしている RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat のバージョン番号が表示されます。

バージョンを判別するには、以下のようにします。

1. Adobe Acrobat Professional を起動して、Ricoh → バージョン情報をクリックします。
2. 情報を確認したら、[閉じる] をクリックします。

ページグループが正しく表示されない

繰り返しテキストに基づいたページグループがページグループナビゲーターに正常に表示されない場合、ページグループのテキストを正しく選択または指定していません。

場合によっては、描画したボックスの幅を調整または指定したテキストを変更する必要があります。

[選択したテキストが見つかったときにページグループを開始] オプションを選択した場合、PDF ファイルの一部の文字に、描画したボックス内で囲む必要のある空白が含まれることがあります。

プレビューでマークアップが正しいページに表示されない

プレビューには、[プレビューの設定] の [実動インテント] プロパティーに基づいたマークアップが表示されます。

たとえば、[実動インテント] プロパティー値が [片面] で、ページ配置が [おもて面の2番目のページのみ] の場合、プレビューには各ページグループの2ページ目にマークアップが表示されます。[実動インテント] プロパティー値が [両面] で、ページ配置が [表面の2番目のページのみ] の場合、プレビューには各ページグループの3ページ目にマークアップが表示されます。

プレビューの正しいページにマークアップが表示されない場合は、次の手順に従います。

1. **Ricoh** → プレビューの設定をクリックします。
2. [実動インテント] プロパティー値の設定を確認します。

テキストを選択するとテキストではなく小さいボックスが表示される

PDF ファイルでテキストを選択し (ページグループまたは文書プロパティーのテキストを選択した場合など)、選択したテキストが小さいボックスとして表示された場合、PDF ファイルの形式が不正な可能性があります。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用して、不正な形式の PDF ファイルを拡張することはできません。

3

PDF ファイルの形式が不正かどうかは、次の 2 つの方法で調べることができます。

- Acrobat 検索ツールを使用して、PDF ファイルに表示されているテキストを探します。たとえば、PDF ファイルの最初のページに「Account Number」という語が表示されているとします。Acrobat の検索ツールにそれらの語を入力して、検索を実行します。Acrobat でそれらの語が見つからない場合、PDF ファイルの形式が不正な可能性があります。
- PDF ファイルからテキストをコピーし、Acrobat 検索フィールドにテキストを貼り付けます。検索フィールドに貼り付けたテキストが、コピーしたテキストを異なる場合、PDF ファイルの形式が不正な可能性があります。

フォント、イメージ、またはその他のリソースが表示されない

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat と RICOH ProcessDirector の両方の PDF ファイルには、フォントやイメージなどのすべてのリソースを埋め込む必要があります。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat カットオフ値のフィールド

解像度が非常に高いモニターや特定の表示設定では、情報の表示方法に問題が生じることがあります。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat での入力フィールドの表示方法を変更するには、以下の手順に従います。

1. デスクトップを右クリックし、[表示設定を] 選択します。
2. [スケールとレイアウト] で [テキストやアプリなどのサイズの変更] の値を [100%] に変更します。
3. 変更を有効にするには、コンピューターを再起動します。

補足

- この変更によりフィールドが小さくなりすぎて使いにくい場合は、[解像度] の値を変更してみてください。

文書プロパティーが表示されない

RICOH ProcessDirector ビューアーの [移動先] リストに [文書プロパティー] オプションが表示されない場合は、ワークフローに IdentifyPDFDocuments ステップテンプレートに基づくステップが含まれていることを確認します。そのステップは、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat から生成した制御ファイルを使用して PDF ファイルから文書プロパティーを抽出します。

特定の文書プロパティーが表示されない場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat を使用して、IdentifyPDFDocuments ステップで指定した制御ファイルを読み込んで、特定の文書プロパティーを定義したことを見つけると、最新の RICOH ProcessDirector 文書プロパティーが読み込まれていない可能性があります。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat のドロップダウン文書プロパティーリストに文書プロパティーが 1 つも表示されない場合は、文書プロパティーをロードする必要があります。RICOH ProcessDirector 文書プロパティーリストの読み込みに関するヘルプトピックの手順に従います。

詳しくは、「RICOH ProcessDirector：文書処理機能のインストール」を参照してください。

メディアオプションが表示されない

メディアオプションを定義しているときに、[代替用紙] リストに RICOH ProcessDirector メディアオブジェクトが表示されない場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は RICOH ProcessDirector メディアオブジェクトの最新リストを取得していません。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat はメディアオブジェクトを media.zip ファイル（または RICOH ProcessDirector の古いバージョンで生成された media.xml ファイル）から取得します。RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat をインストールした場合、および RICOH ProcessDirector でメディアオブジェクトを更新した場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat にメディアオブジェクトを読み込む必要があります。詳しくは、「RICOH ProcessDirector:文書処理機能のインストール」を参照してください。

PDFファイルにテキストを追加したときに、リストにフォントが表示されない

PDFファイルにテキストを追加した場合、フォントのリストには、PDFファイルに埋め込むことが許可されていないフォントを除く、Adobe Acrobatで利用可能なすべてのフォントが含まれます。

必要なフォントがフォントのリストに含まれていない場合は、以下の手順に従います。

1. フォントが Windows [Fonts] フォルダー、または Adobe のインストール先の Resource\Font フォルダーにインストールされていることを確認します。
2. フォントがインストールされている場合は、次の手順に従ってログレベルを警告メッセージに設定します。
 1. **Ricoh** → 設定をクリックします。

2. [ロギング] タブの [ロギングレベル] セクションの [警告] をクリックします。

PDF ファイルにテキストを追加したときに、インストールされている特定のフォントがフォントのリストに含まれていない場合、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は警告メッセージとその理由を表示します。メッセージがログファイルに保存されます。

代替字形のフォントが正しく表示されない

3

このバージョンの RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat は、リガチャ、スワッシュ、および単語内での位置によって変化する字形などの代替字形をサポートしていません。ヘブライ語やアラビア語などの右横書き言語は正しくレンダリングされません。

PDF ファイルにテキストを追加すると、Windows [Fonts] フォルダーにあるすべてのフォントがフォントのドロップダウンリストに表示されます。右横書き言語のフォントおよび対応していない代替字形のフォントがリストに含まれていることもあります。

QR バーコードに日本語データが印刷されない

QR バーコード内のデータを Shift JIS (SJIS) でエンコードする必要がある場合は、次の手順に従います。

1. QR バーコードを定義するのに描画したボックスをダブルクリックします。
2. [設定] をクリックし、[encoding] フィールドに [Shift_JIS] と入力します。
入力データは常に Unicode ですが、この設定により QR バーコードの内容としては Unicode 文字が Shift JIS エンコード方式に変換されます。

「encoding」フィールドを「Shift_JIS」または「SJIS」に設定すると、Shift JIS でエンコードされた UTF-8 が生成されます。このエンコード方式は、日本で普及している DoCoMo i モードでは正確に解釈されません。DoCoMo i モードは、次のエンコード方式の設定とは互換性があります。sjis、x-sjis、windows-31J、MS_Kanji、csShiftJIS、csWindows31J、windows-932、cp943c、ibm-943。これらのエンコード方式ではコードポイントが競合するため、異なる QR バーコードが生成されることがあります

メモリー設定の確認を求めるエラーメッセージが表示される

サイズの大きい PDF ソースファイルを操作しているときに、メモリー設定の確認を求めるエラーメッセージが表示された場合は、RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat のメモリー割り当てを増やす必要があります。

メモリー割り当てを増やすには、以下の操作を行います。

1. **Ricoh** → 設定 → 詳細をクリックします。
2. [ヒープサイズ (MB)] の値を増やします。
3. Adobe Acrobat を再起動します。

4. アクセシビリティー

リコーは、年齢や能力に関係なく、誰もが使用できる製品を提供することを目指しています。

アクセシビリティーに対するリコーのこれまでの取り組みについては、リコーWebサイトの[アクセシビリティーに関するページ](#)を参照してください。

アクセシビリティー機能

アクセシビリティー機能は、運動障害または視覚障害などの障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

この製品のアクセシビリティー機能は、主に次のことを目標としています。

- スクリーンリーダーや画面拡大機能などの支援技術を使用できるようにする。
- マウスの代わりにキーボードを使用できるようにする。
- 音量、色、コントラスト、フォントサイズなどの属性を変更する。
- キーを押さずに触覚で識別する。
- 特殊なポインティングデバイスや点字ディスプレイなどの代替入出力装置を接続する。

さらに、製品のインフォメーションセンターおよび使用説明書は、アクセシビリティー対応の形式で作られています。

RICOH ProcessDirector Plug-in for Adobe Acrobat マークアップナビゲーターのショートカットキー

マークアップナビゲーターで、定義したマークアップオブジェクトにフォーカスが当たっている場合、次のショートカットキーを使用することができます。

マークアップナビゲーターのショートカットキー

説明	キー
[編集] ダイアログが開きます。	Enter
マークアップオブジェクトを削除します。	Delete

キーボードナビゲーション

本製品は、Microsoft Windows標準のナビゲーションキーを使用しています。

3



お問い合わせ

お買い上げいただきました弊社製品についての操作方法に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

転居の際は、販売店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店をご紹介いたします。